

50th anniversary

アルペン芦山

創立 50 周年記念誌



目 次

目次	P1
会長挨拶	P2
田淵 創生会長記念講演	P3
年表で見るあゆみ	P6
あゆみの説明	P14
写真集	P17
創立からの活動	P17～P21
各部の活動	P22～P24
兵庫縦断トレールの開拓	P25～P26
50周年記念登山・式典	P27～P28
記念文集	P29
事故から学ぶ	P59
アルペン芦山歌集	P61
編集後記	P62



「2016年はアルペン芦山の創立50周年です」

会長 辻本 雅夫

アルペン芦山が生まれたのは1966年、榎有恒のマナスル初登頂以来起きた登山ブームが続いている最中でした。若者が競うように山に向かい、人々は自分たちの組織、自分たちの山岳会を求めて新しい会が次々に作られていったのです。

創立メンバーの一人で、会長を務められた田淵創生さんには、6月の定期総会で、当時の興味深いお話をいただきました。この記念誌には講演の要旨を掲載しています。アルペン芦山はその後、浮沈はありつつも今日まで成長してきました。会員のみなさんとともに喜び合いたいと思います。

そして50年間の歩みに思いを致し、新たな発展のきっかけとしたいと思います。

50周年の記念誌には、会の歴史と会員の思いが詰まっています。年表をじっくり見てください。春、夏、秋、冬、それぞれの季節に例会や合宿を組み、一般ルートだけでなく沢登りや登攀ルートにも挑んでいます。また毎年のように登山バスを企画、実施し、会員以外の大勢とともにいろんな山に行っています。

クリーンハイクで私たちのホームグラウンドであるロックガーデン、地獄谷の清掃や、岩登り教室、登山学習会など、知識、技術の普及に努めてきました。芦屋市の緑化推進事業にも協力し、「山まつり」もお手伝いしています。

地域に開かれた総合山岳会として足跡を残しているのです。

私たちはこの歩みに誇りを持つことができますと思います。

50年の歴史を刻んだ会ですが、課題は多くあります。中心メンバーは60代、70代に偏っています。若いメンバーをもっと増やしながら、リーダー層を育てて若返りを図らなければなりません。私たちの体力や知識、技術もまだまだ不十分です。

登山ブームは新たな盛り上がりを見せ、中高年から若い人達に広がっています。これらの登山愛好者を組織し、楽しさと安全を広げていくことが必要です。

私たち自身、体力の維持、向上を図り、新しい知識や技術を取り入れる。これらのことにもっと努力を傾けなければなりません。

そして50周年の記念すべき年にここにいることを喜びとし、これから自分たちの登りたい山にどんどん向かっていきましょう。

田渕 創生 会長 記念講演

■田渕創生（たぶち・はじめ）氏

（創立時から10年間会長）2016年6月26日 アルペン芦山第50回定期総会

50周年おめでとうございます。みなさん一所懸命いろんな山へ行って頑張ってきて、50周年を迎えることができ、素晴らしいことだと思います。

東京に日本勤労者山岳連盟が生まれました。1960年でした。最初に加盟したのは九州の福岡労山、2番目に兵庫労山が加盟したのです。

兵庫では西宮の郵便局の仲間が山に登っていた。勤労者山岳連盟ができたと聞き、兵庫にも作ろうということになり、西宮郵便局の仲間が作っていた会が急遽労山に組織され、1963年に「若者山岳会」が生まれた。64年に「西宮勤労者山岳会」に改称。明昭の原水さんが発起人でした。

労山をつくろうというメンバーは神戸にも、尼崎にも、宝塚にもいた。私は個人で山に行っていました。会社の仲間と立山でガスに巻かれて1日中歩き回った。自分らの知識では山に登れない。組織に入って技術を身に付ける必要を感じ、西宮勤労者山岳会に入りました。

兵庫のあらゆるところに労山を作ろうという話が出て、芦屋に住んでいたので、大学肇さんらから「西宮労山をやめて芦屋へ行け」と言われた。芦屋には若い仲間が4、5人いた。若者山岳会にいた山本興三さん（芦屋の住人）が力を入れてくれ、「芦屋勤労者山の会」を作った。山本さんが会長になってくれると思っていたのに「仕事が忙しくてだめ」と断られ、1回でも山の経験があるのは田渕と言われ、会長にならざるを得なくなった。

運営の仕方も山の技術も知らない、どうしようと連盟で話をしていると、川崎製鉄、川崎重工業、三菱造船などの大きな会社の仲間が神戸勤労者山岳会に協力してくれることになり、沢山の人が勤労者山岳会の会員になってくれた。

宝塚は自分たちの会で頑張る。芦屋は出来たけれど何もない。どうするかということで「芦屋の田渕会長をしごいたる」ことになり、岩登りや沢登り、いろんなところに連れて行ってくれた。私が身につけたことを会に帰って、会の仲間に教える。

もっと技術を高める必要を感じ、全国連盟が涸沢で岩登り講習会、富士山で氷雪技術講習会など、絶えず登山学校をやっていたのに参加した。

勤労者山岳会なんかは、すぐつぶれると思われていたがつぶれなかった。新しく芽生えて来るものを育てないかんと考える登山者が多かった。今井通子さんや、夫の高橋和之さん（ダンプさん、元勤労者山岳会の会員）、吉尾弘さん、伊藤正一さん（山小屋の主人）などが新しいものに対して、一所懸命に育てようと勤労者山岳会に協力してくれ、技術をどんどん教えてくれた。

ダンプさんが「田淵、田淵」と穂高のあちこちへ連れて行ってくれた。大阪勤労者山岳連盟と大阪岳連が合同で講習会を大阪で開いた。そのとき、今井通子さんやダンプさんが来て技術指導してくれた。

ダンプさんはスポーツ店「カモシカ」（東京・名古屋）の主人。屏風や滝谷へも連れて行ってくれた。冬の富士山の氷はハンパじゃない。ガラスのようで、固くてアイゼンが効かない。ピッケルも打ち込めない。跳ね返される。吉尾さんが「こんなところで落ちたら助からへんで。でもトレーニングせなアカン」。吉尾さんがパートナーとなってピッケルを打ち込むとパッと止まった。「だからトレーニングは必要なんや」と教えてくれた。

しかし、山は知識や技術があっても危険がたくさんある。兵庫労山も事故を起こした。最初の死亡事故はNM子さん。穂高縦走中に亡くなった。

私も起こした。トレーニング中、アブミルートを私がトップで、最後のボルトを打ち、アブミをぶらさげて、ハングを乗っ越す。アブミに乗ったとたん、ボルトのピンが開いて私が落ちた。そのとき安全ベルトは胸だったので（今は腰）、肋骨にヒビが入って、本番の山行には参加できなかった。

また芦屋勤労者山岳会で黒部へ行きたいと考え、行きたい者3人。田淵、淵上、ほか1人。3人でトレーニングに渡渉訓練をしようと、道場から武庫川を生瀬まで下る計画を立てた。3人で行くはずが、いつも遅れてくる1人が来ず、2人で行くことにする。

下っているときに「田淵さん、泳げません」と淵上が言った。「ザックを捨てろ」と言ったが、ザックと共に沈んでいった。すぐ警察に電話で救助を頼む。有馬警察が救助に来てくれた。彼は10mほど下流で見つかった。

淵上の実家、九州の佐賀から両親が出てきた。有馬警察は「田淵を訴えろ」と言ったが、ご両親は「息子は好んで登山をしていた。そこで事故で死んでしまったので訴えることはしません」と言ってくれた。それからずっと毎年淵上宅へお参りに行っている。

九州から帰ってくると「すぐ田淵来い」と呼ばれた。「A氏が事故を起こした。亡くなったのはY君」。兵庫県勤労者山岳連盟の登山学校、3月に口バの耳を通る山行でした。「おかしいじゃないか、Y君をなんで連れて行ったのだ。Y君は問題があると言ったじゃないか」。前年に兵庫労山の登山学校で同じコースを田淵が組んでY君もいた。Y君はホエーブスを担当、彼はホエーブスを持ってきたが、燃料を入れてなかった。帰って常任理事会で「Y君は要注意」を伝えた。あくる年に連れて行って事故を起こした。「これはアカンやろ。もっと注意すべきやろ」と私は言ったが、「行きたいというやつを連れていかんわけはいかんやろ」「それは労山じゃないやろ」とちょっともめた。

この事故が大変だった。全員凍傷にかかって足の指をどこかなくしてしまった。民間のヘリが飛んでくれないので、会長の竹原先生が自衛隊のヘリを飛ばしてくれるよう頼んで、自衛隊の基地から私は奥穂に電波を打って「雪を踏み固めて、○と十字（ヘリが下りる場所）を書くよう」指示する。同時に「絶対助かるからガンバレ」と伝えた。

小屋にいる一般の山岳会の人たちが協力してくれ、Ｙ君の遺体を口バの耳から奥穂の小屋へ運んでくれた。自衛隊は「遺体はヘリに積めない」と言われ、生存者のみヘリで運んだ。

兵庫労山の理事会で、本来リーダーをやるべき理事が（直前にＡ氏にスイッチした人）「リーダーになってくれとは言ったが、事故を起こしてくれとは一切言っていない」といった。これを聞いてこんな会にはおれないと労山の役員をすべておりた。こんな会と山に行けないと思った。また一人で山に行っていたが、やっぱり一人ではアカンと甲山山岳会に入会し、今も甲山勤労者山岳会のメンバーとして一緒に山に行ってます。

六甲全山縦走は１９６６年に始まりました。「兵庫労山で何か年中行事をつくらへんか」との声が出て、誰かが「加藤文太郎さんがゲタで全山往復しているゾ」と言った。「年中行事に全山縦走を組もう」となり、西と東に分けて、くまなく歩いてコースを決めた。

第１回は１００名足らずで歩いた。東六甲縦走路に「ガンバレ」「アトすこし」「ゼンザイが待っている」の看板を立てた。

１回目、２回目は最終電車に間に合わない人が出た。それでタイムリミットをつくり、最終電車に間に合うようにした。今年で５０回となる。私は今年も歩いてきました。最高峰で鬼塚さんのところでいつも何か食べさせてもらう。

今兵庫県勤労者山岳連盟は約２０００余名、４５労山で、３０００名にしたいと考えている。

あるおばあさんが「田淵さん、私らが入ったころは、登山靴はいて、山の恰好して家を出られなかった。近所が恐くて、風呂敷に山の道具を包んで出て、途中で山の服装に着替えたよ。今は堂々と山の恰好して家を出て、山に行けるようになった。これは一所懸命やってくれた原水さんたちのおかげやネ」。

もっと拵げようじゃないか。新しい仲間と行くと楽しい。古い仲間と行くのも楽しい。皆と行くともっと楽しいと思う気持ちがある。

アルペン芦山も新しい仲間を増やして、皆で力を合わせ、あらゆる角度から山に登ってほしいと思います。



【アルペン芦山 年表で見る50年のあゆみ】

年	会員数	月日	私達の会の動き
1963 (昭和38年)		7月	・日本勤労者山岳連盟結成（安く、楽しく、安全に）
1966 昭和41年 (会長) 田淵創生 (事務局長) 古賀芳信 (事務局長) 鈴木隆生 (会計) 北方久美子	10	4月 10月 12月	・兵庫県勤労者山岳連盟結成（4労山、250名） ・10月7日 打出浜集会所にて結成総会を開催 ・兵庫県で5番目の労山として「芦屋勤労者山の会」10名で会事務所を三浦氏の自宅（芦屋市）を借用。 ・結成記念に「おたふく山」登山 ・第1回六甲全山縦走
1967 (昭和42年) (会長) 田淵創生 (副会長) 鈴木隆生 (事務局長) 三浦命 (会計) 北方久美子	17	8月 10月	・春山「播州高原」 ・兵庫県で初めてテント山行「白馬岳から祖母谷：15名」 ・ロッククライミングを初めて行う ・会事務所を芦屋市打出浜町に移転（深山荘内） ・六甲美化運動登山月2回取り組み、ごみ等回収 ・県連主催の登山バス「御岳」に4名参加
1968 (昭和43年) (会長) 田淵創生 (副会長) 鈴木隆生 (事務局長) 服部吉秀 (会計) 北方久美子	42	8月	・春山「鹿島槍」、夏山「白山、後立山、石鎚山、針ノ木岳」 ・兵庫労山（8労山、約400名） ・第4回全国勤労者登山祭典「針ノ木岳」5名参加
1969 (昭和44年) (会長) 田淵創生 (副会長) 鈴木隆生 (事務局長) 三浦命 (会計) 木根	52	6月 10月	・春山「鹿島槍、大台ヶ原」、夏山「穂高岳」 ・秋山「御岳」、冬山「ハケ岳」11名 ・冬山「ハケ岳、神戸労山との交流登山」 ・労山遭難対策規定創設提案 ・創立3周年記念文集【蘆】を発行
1970 (昭和45年) (会長) 田淵創生 (事務局長) 植村行雄 (会計) 藤本幸子	60		・春山「鹿島槍、多紀アルプス」、夏山「女性パーティーで白馬岳」 ・夏山「後立山縦走、雲ノ平、槍、槍穂縦走」 ・冬山「ハケ岳、穂高」 ・結成4周年記念として登山バスの始まり「北ハケ岳：45名」 ・但馬山岳大幹線林道建設反対運動に参加（マイクロバス1台出す）
1971 (昭和46年) (会長) 田淵創生 (副会長) 鈴木隆生 (事務局長) 田淵常雄	68	10月	・春山「穂高、大山、大峰、播州高原」4パーティー28名参加 ・夏山「劔岳」 ・冬山「ハケ岳・穂高」 ・登山バス「穂高」へ ・兵庫労山（10労山、550名）
1972 (昭和47年) (会長) 田淵創生 (副会長) 植村行雄 (副会長) 北西公子 (事務局長) 鈴木隆生 (会計) 金沢	63	4月 9月 10月	・春山「穂高」 ・夏山合宿「穂高周辺、7/25～8・9」 ・5周年記念文集【蘆】を発行、会名を“芦屋勤労者山岳会”と改名 ・結成6周年記念登山バス「木曽御岳」へ（バス2台80名） ・兵庫労山（14労山、695名） ・登山バス「木曽御嶽」2台88名 ・会費250円を300円に値上げ
1973 (昭和48年) (会長) 田淵創生 (副会長) 山岡悠八 (副会長) 北西公子 (事務局長) 加納基嗣 (会計) 北西利子	72	9月	・春山「氷ノ山、表銀座、東鎌尾根、槍穂、大杉谷」 夏山「白馬岳」 ・スキーバス ・兵庫労山（16労山、785名） ・会費を400円に値上げ ・登山バス「白馬岳」へ2台98名
1974 (昭和49年) (会長) 田淵創生 (副会長) 山岡悠八 (副会長) 北西公子 (事務局長) 加納基嗣 (会計) 服部容子	94	4月 6月 7月 9月	・春山「穂高、北鎌」、夏山「朝日、雲の平、立山周辺、白馬岳」 ・夏山「比良縦走」、秋山「南岳、槍平」、冬山「氷ノ山」 ・全国統一の労山遭難対策基金創設 ・事務所移転（芦屋前田町から茶屋町へ） ・夏山トレーニング武庫川・道場付近渡渉中、淵上博氏が急性心不全にて事故死。 ・登山バス穂高方面4コース「上高地・西穂・北穂・奥穂、98名」 ・一時期会員100名を突破

年	会員数	月日	私達の会の動き
1975 (昭和50年) (会長) 加納基嗣	57	1月 5月 6月 7月 9月 10月	・冬山「氷ノ山」、春山「鹿島槍、後立山縦走」 ・春山「大台ヶ原、大杉谷」 ・会報「芦山」100号を発行 ・第3回氷ノ山自然を守る大会（会員23名・一般26名） ・会員100名を突破し、県連指導のもと空白地に労山結成すべく、3労山（芦屋労山、東灘労山、北神山の会）に分離独立。 ・芦屋以東を芦屋勤労者山岳会として第1回結成総会を開催 ・兵庫労山（27労山、1,249名） ・登山バス「ハヶ岳」へ50名
1976 (昭和51年)	64	10月	・春山「涸沢、槍ヶ岳」、夏山「白山、北岳、塩見岳縦走」 ・登山バス「木曽御岳」へ54名 ・スキーバス「戸狩」 ・第2回総会、事務所維持のため債券発行
1977 (昭和52年)	61	10月	・登山バス「穂高」 ・会事務所、芦屋市大槻町へ移転
1978 (昭和53年)	52	9月 10月	・登山バス「白山」50名 ・兵庫労山（32労山、1,719名） ・六甲からゴミを一掃する運動スタート ・この年のゴミ一掃ハイク3回で参加者945名、計13.7トン
1979 (昭和54年)	66	9月	・登山バス「木曽駒ヶ岳」へ33名 ・山内修作、冬ネパールアンナプルナに参加
1980 (昭和55年) (会長) 蛭子末雄	50	1月 2月 10月	・ロックガーデン階段化反対運動 ・初級登山学校の開催 ・登山バス「穂高」へ27名
1981 (昭和56年) (会長) 蛭子末雄 (副会長) 高橋昇 (副会長) 篠崎知子 (事務局長) 一村健司 (会計) 根角賀代子	39	1月 7月 11月	・ロックガーデン階段反対署名運動16万人分環境庁長官に面会 ・登山バス「大山」へ37名 ・親しまれる会を目指して会の愛称を“アルペン芦山”とする ・会費はすでに900円、総会で夫婦会員の値下げを提案、可決
1982 (昭和57年) (会長) 蛭子末雄 (副会長) 高橋昇 (副会長) 篠崎知子 (事務局長) 一村健司	42	1月 3月 5月 7月	・夏山「剣・立山」、秋山「槍・穂高、四国・剣山」 ・兵庫労山、2,300名達成 ・神戸みなと労山ハヶ岳で雪崩遭難（11名死亡） ・ハヶ岳遭難事故の教訓として会運営の見直しと改善 ・登山バス「蓼科」へ28名 ・ごみを一掃する運動、4年間で参加者延べ16000人、ゴミ160トン
1983 (昭和58年) (会長) 蛭子末雄 (副会長) 青山隆文 (副会長) 篠崎知子 (事務局長) 一村健司 (会計) 森輝夫	28	4月 10月	・第1回六甲全山縦走タイムトライアル（250名） ・会員数減少・財政ピンチ ・第1回県連駅伝大会（芦屋浜ランニングコース）
1984 (昭和59年) (会長) 蛭子末雄 (副会長) 青山隆文 (副会長) 篠崎知子 (事務局長) 一村健司 (会計) 森輝夫	34	6月 7月 9月 11月	・冬山御嶽山スキー、春山「穂高三山」、夏山「鎌ヶ岳」 ・兵庫労山、2,139名 ・臨時総会を開催し、“事務所の維持”及び“会活動の活性化”を討議 ・“初級登山教室”を復活、活動の充実を目指す ・総会にて正式名称を【アルペン芦山】とする。財政ピンチ続く！
1985 (昭和60年) (会長) 蛭子末雄 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 森輝夫	36	1月 7月 9月	・宝塚山の会、鹿島槍で遭難（4名死亡） ・宝塚山の会遭難の捜索に隊員派遣、捜索隊2名派遣、カンパ募集 ・登山バス「白馬岳」へ41名

年	会員数	月日	私達の会の動き
1986 (昭和61年) (会長) 一村健司 (副会長) 鬼塚孝二 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 川島隆雄	43	3月 4月 10月 11月	・岩登り教室の開催 ・兵庫労山、2,236名 ・兵庫労山創立20周年記念事業、【兵庫百山】の発行を決定 ・登山バス「立山」へ37名 ・第4回県連駅伝大会に参加、15位(6区間26km、1時間58分16秒)
1987 (昭和62年) (会長) 山内修作 (副会長) 鬼塚孝二 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 森輝夫 (会計) 西川雅美	54	4月 5～6月 9月 10月 11月	・冬山「西穂」 ・芦屋市民マラソンサポート始まる ・岩登り教室の開催 ・秋の登山教室の開催 ・登山バス「木曾駒ヶ岳」へ52名 ・六甲からゴミを一掃する運動100回記念集会 延べ参加人数43,250名ゴミの量245トン ・第5回県連駅伝大会に参加、5位入賞(6区間26km1時間54分49秒)
1988 (昭和63年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	67	2月 4～6月 7月 9月 10月 11月	・冬山「富士山」、「氷ノ山、御嶽」 ・春山「槍から北穂高、涸沢から北穂高」 ・夏山「奥穂・北穂、鹿島・五竜・針ノ木」 ・秋山「下の廊下」 ・芦屋市の緑化推進事業に協力、高座の滝手前に植樹 ・岩登り教室の開催 ・登山バス「富士山」へ36名 ・秋の登山教室の開催 ・登山バス「伊吹山・ナイトハイク」26名 ・登山バス「甲斐駒ヶ岳」42名 ・第6回県連駅伝大会に参加 ・アルペンA：5位入賞(1時間55分56秒),アルペンB：12位(2時間10分36秒)
1989 (平成元年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	71	2月 3月 4～6月 4月 7月 8月 11月	・芦屋市の緑化推進事業に協力、高座の滝手前に植樹 ・兵庫労山、2,246名 ・第5回明日香ひなまつり古代マラソン参加 フルマラソン6名、ハーフマラソン1名(全員完走) ・岩登り教室の開催 ・芦屋市民マラソンサポート ・登山バス「木曾御岳」へ37名 ・下の廊下、北岳縦走、前穂北穂 ・登山バス「槍ヶ岳・西穂高」へ33名 ・第7回県連駅伝大会に参加15名、サポート5名 アルペンA：8位入賞(1時間57分23秒),アルペンB：15位(2時間12分58秒)
1990 (平成2年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	68	2月 3月 3～5月 4月 6月 9月 10月	・登山学習会の開催 ・芦屋市の緑化推進事業に協力、高座の滝手前に植樹 ・タイムトライアル出走2名、サポート11名 ・岩登り教室の開催6回(延べ94名、一般12名) ・芦屋市民マラソンサポート(29名) ・登山バス「大山」へ26名 ・登山バス「薬師岳」へ31名 ・兵庫労山25周年記念海外登山「ガンゴトリⅢ峰」に川村氏を派遣 3人の登頂メンバーのひとりとして、頂上(6,577m)に立つ。
1991 (平成3年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	69	2月 3月 3～6月 3～6月 4月 10月 11月 11月	・冬山「八方尾根・唐松岳」 ・雪山と秘湯「上高地釜トンネル内でテント泊」「氷ノ山」 ・春山「上高地・涸沢」「上高地・北穂」「剣・ハッ峰」 ・秋山「大台ヶ原・大杉谷」「白峰三山」「雨飾山」 ・登山バス「北岳」(台風接近の為中止) ・登山学習会16名 ・タイムトライアル完走者3名サポート15名 ・兵庫労山、2,298名 ・芦屋・高座の滝さくら100本植樹達成 ・岩登り教室の開催(延べ58名)6回 ・芦屋市・育成天然林整備事業として現地調査及び乱伐反対の署名運動 ・芦屋市民マラソンサポート17名 ・初心者のための岩登り10名 ・労山対抗駅伝8名 ・定期総会・25周年記念レセプション開催

年	会員数	月日	私達の会の動き
1992 (平成4年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	73	1月 3月 6月 8月 9～11月 10月 11月	・冬山「西穂高・独標まで」 ・雪山と秘湯「ハヶ岳・本沢温泉」 ・春山「ハヶ岳・赤岳温泉」「赤岳」「赤岳・硫黄岳」「槍・北穂」 ・夏山「白馬」「富士山」「剣・阿曾原」「薬師・雲の平」「西穂高岳」「北岳」「穂高・コブ尾根」 ・秋山・RC山行2コース「北岳バットレス」「穂高・滝谷ドーム」 ・登山学習会6名 ・25周年記念、横池に桜植樹（現在はなし） ・身障者ハイクサポート3名 ・タイムトライアル参加者7名、サポート15名 ・初めての岩登り 10名 ・救命講習会20名 ・岩登り教室6回延べ70名 ・登山バス白山52名 ・25周年記念登山・雪彦山43名（ハイキング26名、岩登り17名） ・労山対抗駅伝8名 ・総会で運営委員会の開催日を火曜日から水曜日に変更
1993 (平成5年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	79	3月 4月 7月	・冬山「ハヶ岳」「槍ヶ岳」 ・雪山と秘湯「宮之浦岳」 ・春山「谷川岳」「奥穂高岳」「北鎌尾根・滑落者救出」 ・夏山「立山三山」「黒部五郎～雲の平」「赤木沢」「ハッ峰六C・六Dフェース」5コース合流して帰宅。 ・登山バス「常念・燕岳」28名 ・タイムトライアル完走者5名、棄権2名、サポート16名 ・芦屋ファンランサポート36名、初級沢登り教室（芦屋川7名） ・沢登り入門（西山谷15名）、沢登り教室（芦屋川7名）
1994 (平成6年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	76	1月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 10月 12月	・冬山（槍ヶ岳）「西穂高岳」「大山」 ・雪山と秘湯「奥鬼怒・八丁の湯」 ・春山「木曽駒～宝剣」 ・夏山「愛知川沢」「谷川岳～湯檜曾川本谷」「甲斐駒・仙丈」「剣岳～黒部溪谷」「ジャンダルム」「奥穂高」「至仏・燧ヶ岳・男体山」「登攀・滝谷ドーム」 ・秋山「熊野古道」 ・槍ヶ岳における靱帯損傷事故（スノーボードにて搬出） ・蔵王スキー場における右足・膝下骨折事故 ・労山対抗駅伝（サポート含み19名）-この年で終了- ・タイムトライアルサポート11名 ・国際ファンラン・ウォークサポート49名 ・国際チャレンジディ芦屋、ロッククライミング教室サポート20名（一般参加者31名） ・会員有志でスイストレッキング10名、報告会開催 ・登山学習会“観天望気”（22名） ・扇ノ山事故(明石労山単独行) 捜索に11名参加（山内修作氏27日死体確認） ・滝谷にて岩登り中の右足打撲事故（ヘリにて搬出） ・登山バス「石鎚山・面河溪谷」29名、救命講座21名 ・会報【芦山】1995年1月号より再刊第1号から第5号まで発行
1995 (平成7年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 山内修作 (副会長) 川村隆志 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	78	1月 2月 3月 4月 5月 6月 9月 10月	・冬山「西穂高岳」スキー「月山」 ・春山「韓国岳・開聞岳」「立山三山縦走」「北穂・涸沢岳縦走」「吾妻山・安達太良山」「春スキー月山」 ・夏山「八経ヶ岳」「鹿島槍2コース」「富士山」「鳳凰三山」「槍ヶ岳」「白山」「源次郎尾根」「北穂高」「大山」 ・秋山「四国剣山」「氷ノ山」 ・17日阪神・淡路大震災発生（会員竹中氏死亡、三八通りの会事務所全壊） ・会員30名で備品を搬出、有馬の倉庫に一時保管、塚口に事務所を置く、会の運営委員会を第2・4の日曜日15時からに変更 ・クリーンハイクから山行再開 ・アースデー5名 ・14日芦屋サウザンドビル地下1Fの新事務所に26名で引越す ・登山学習会（ザイル操作）、ハイクのための岩登り17名、岩登り25名 ・登山バス「火打・妙高」30名 ・タイムトライアル、芦屋国際ファンラン、国際チャレンジデー中止 ・岩登り教室6回（延べ115名）、西お多福山ハイキング最多参加者52名 ・事務局ニュースを【芦山】に一本化して10月より統合し、1月号から会報【芦山】月刊で発行 ・定期総会開催



年	会員数	月日	私達の会の動き
1996 (平成8年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 川島隆雄 (副会長) 辻本雅夫 (事務局長) 一村健司 (会計) 松山芳夫	88	1月 3月 4月 6月 9月 9～10月 11月	・冬山「甲斐駒・仙丈ヶ岳」「ハチ高原スキー」 ・春山「南ハヶ岳縦走」「天城山」「鳥海山・月山」「西穂高・ジャンダルム・奥穂」「奥秩父」 ・夏山「那須・安達太良・磐梯山」「甲斐駒・仙丈ヶ岳」「蝶ヶ岳」「富士山」 ・秋山「氷ノ山」「鎌ヶ岳・御在所」「笠・鷲羽・水晶岳」「北岳バットレス」 ・ハイキング参加者にストレッチ後、事故の責任は個人の責任と必ず伝える事を再確認。 ・最後のタイムトライアル（完走者2名サポート18名） ・事務所内ボルダリング取付工事（51名より寄付） ・アースディ9名（JR芦屋駅北側広場） ・登山バス「大台ヶ原・大杉谷」23名 ・救命講習会（県連救助隊と合同31名） ・30周年記念清掃ハイク・バーベキュー（4コース、42名） ・登山バス「鳳凰三山」38名 ・岩登り教室5回延べ101名(新人9名) ・総会兼30周年記念行事（7コース六甲山集中登山39名、YMCA六甲研修所47名） ・30周年記念（御在所岩登り）（鎌ヶ岳～御在所） ・最多ハイキング参加者ボンボン山66名
1997 (平成9年) (会長) 鬼塚孝二 (副会長) 川島隆雄 (副会長) 辻本雅夫 (事務局長) 梅田実 (会計) 松山芳夫	85	1月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月	・冬山「白出沢出会・槍」「妙高スキー」 ・雪山と秘湯「鉢伏山」「和佐又山～大普賢岳」 ・春山「鳥海山・月山」「剣岳」「稲村ヶ岳」「瑞垣山・金峰山」 ・夏山「西穂・奥穂」「五竜岳」「剣岳」「羅臼・斜里」 ・秋山「下の廊下」「氷ノ山」「雲取・両神山」 ・氷ノ山で5人死亡の遭難事故、会から捜索隊参加（当会から5回延べ36人） ・13日最後の仲間発見、カンパ募集芦屋山関係約100名 ・芦屋アースディ（クライミングボード19名） ・1日岩登り教室27名 ・登山バス「甲武信岳」38名、救命講習会 ・摩耶山で道迷いの捜索要請、3名が参加、無事保護される ・沢登り教室7名 ・初級岩登り教室4回20名 ・登山バス「奥白根・男体山」17名、穂高屏風岩岩登り ・中級岩登り教室2回17名 ・総会で会費納入を半年・一年に統一（3月・9月）、これにあわせて遭対基金も9月に統一 ・最多ハイキング参加者（船坂谷98名） ・一泊岩登り「雪彦山」
1998 (平成10年) (会長) 川村隆志 (副会長) 増本忠彦 (副会長) 山内一晃 (事務局長) 梅田実 (会計) 松山芳夫	87	4月 5月 7月 10月 11月	・冬山「唐松岳」 ・雪山と秘湯 ・春山「白馬」「唐松」合流して帰る ・夏山「白峰三山縦走」「芦生演習林」「（西穂高途中下山） ・秋山「早月尾根」 ・桜の植樹10本35名 ・アースデー参加を芦屋山まつり参加へ変更13名(クライミングボード) ・登山バス「尾瀬、至仏山・燧ヶ岳」43名 ・10月開催最後の総会 ・登山バス「由布岳、九重山」26名 ・最多ハイキング「洞川・梅見」参加者73名
1999 (平成11年) (会長) 川村隆志 (副会長) 山内一晃 (副会長) 鬼塚孝二 (事務局長) 福富孝吉 (会計) 松山芳夫	81	4月 5月 6月 6月 7月	・冬山「スキーと雪山、伊吹山」 ・雪山と秘湯「笠ヶ岳・五色温泉」「氷ノ山」 ・春山「穂高岳周辺テントと小屋で17名」「槍ヶ岳」「御在所岳」 ・夏山「弥山・八経ヶ岳」「槍・大キレット」「剣岳・源次郎」「ジャンダルム」「沢・中御所・笛吹川」 ・登山バス「谷川岳」43名 ・登山学習会（登山の注意点、地図の見方） ・武庫川清掃9名 ・救命講座54名 ・定期総会（この年より10月第4日曜から6月第4日曜へ変更） ・一日岩登り教室 ・最多ハイキング参加者（小金岳77名）
2000 (平成12年) (会長) 川村隆志 (副会長) 山内一晃 (副会長) 鬼塚孝二 (事務局長) 福富孝吉 (会計) 松山芳夫	77	3月	・冬山「西穂高」 ・雪山と秘湯「西穂山荘まで」 ・春山「北ハヶ岳縦走」「白馬山」「月山・安達太良山」「大峰山の北半分」「鎌ヶ岳・御在所縦走」 ・夏山「雨飾山」「北岳」「南ア縦走」「薬師岳」「後立山縦走」「蓮華・白馬」 ・秋山（石鎚山） ・学習会（セルフレスキュー-28名）

年	会員数	月日	私達の会の動き
		5月 10月	・芦屋山まつり14名、岩登り教室「蓬莱峡」、救命講座18名 ・登山バス「蓼科・北ハケ岳3/4縦走」30名、以降登山バス一時停止 ・最多ハイキング参加者北山・花見76名
2001 (平成13年) (会長) 川村隆志 (副会長) 鬼塚孝二 (副会長) 福富孝吉 (事務局長) 福富孝吉 (会計) 松山芳夫	77	5月	・冬山「燕岳」 ・雪山と秘湯「上高地散策」 ・春山「ジャングルム」「剣・立山」「東吾妻・磐梯山」「宮之浦」 ・夏山「富士山」「白神山地」「赤石・塩見」「トムラウシ」 「源次郎尾根」「黒部上の廊下」 ・秋山「裏剣」「岩木・八甲田山」 ・第40回芦屋山まつり15名、有馬三山ハイキング最多参加者66名 ・六甲からゴミを一掃する呼び名を兵庫からに変更
2002 (平成14年) (会長) 川村隆志 (副会長) 鬼塚孝二 (副会長) 福富孝吉 (事務局長) 合田則子 (会計) 松山芳夫	90	3月 8月 10月 12月	・冬山「木曽駒ヶ岳」 ・雪山と秘湯「浅間周辺」「熊野古道」 ・春山「石鎚山」「木曽駒ヶ岳」「雨飾山(苗場山)」「韓国岳・開聞岳」 ・夏山「普賢・阿蘇山」「利尻」「立山・剣」「高妻・戸隠山」 「南ハケ岳縦走」「白馬・唐松」「鹿島槍・五竜」「ジャングルム」 「雲の平・鷲羽山」「笠ヶ岳」「甲斐駒・仙丈」 ・秋山「氷ノ山・鉢伏」「裏剣」「大台・大杉谷」「傾山・祖母山」 「大台ヶ原」「弥山・八経ヶ岳」 ・51の会旗揚げ ・ボーイスカウト13回ジャンボリーサポート23名 ・〔アルペン芦山の決まりごと〕提案 ・納山祭の前日事務所でテント泊学習会(サウザンドビル地下)51の会 ・最多ハイキング参加者夙川花見117名、赤子谷95名
2003 (平成15年) (会長) 川村隆志 (副会長) 鬼塚孝二 (副会長) 福富孝吉 (事務局長) 合田則子 (会計) 西田政行	84	2月 5月 6月 12月	・冬山「ハケ岳」 ・雪山と秘湯「雪の五箇山」「天城山」「熊野古道」 ・春山「筑波山」「入笠山」「蝶ヶ岳」 ・夏山「十勝岳」「富良野岳」「燕・常念・蝶」「荒島岳」「穂高」 「東鎌尾根・槍」 ・秋山「白馬三山」「釈迦ヶ岳・弥山」「十勝岳」 ・アイスC御在所 ・沢テント泊1回 ・芦屋山まつり19名(サポート雨のため中止) ・芦屋市立浜風小3遠足サポート8名 ・救命講習会21名 ・六甲全山縦走163名(会員15名、サポート9名) ・最多ハイキング参加者夙川花見64名
2004 (平成16年) (会長) 辻本雅夫 (副会長) 樫山茂 (副会長) 中村稔 (事務局長) 合田則子 (会計) 西田政行	82	5月 6月 11月 12月	・冬山「ハケ岳」「大山」 ・秘湯中止 ・春山「出羽三山」「穂高」 ・夏山「荒川三山・赤石」「北岳」「ジャングルム」「大菩薩・雲取山」 「早月尾根・剣」「四国剣山」 ・秋山「室堂・裏剣」「佐渡」「蒜山」「大雪山・阿寒」 ・沢登りテント泊4回 ・芦屋山まつり(ボード雨の為中止)18名 ・定期総会開催、救命講習会13名 ・事務所を地下から同ビル2F(205号室)へ引越し ・六甲全山縦走158名(会員15名、サポート10名) ・51の会活動停止 ・最多ハイキング参加者中山縦走50名 ・経費削減により会報送付を郵送から宅急便へ変更
2005 (平成17年) (会長) 川島隆雄 (副会長) 樫山茂 (副会長) 成田勝彦 (事務局長) 合田則子 (会計) 西田政行	78	3月 4月 5月 6月 10月 12月	・冬山「西穂高」 ・雪山と秘湯「ハケ岳・本沢温泉」「氷ノ山」 ・春山「槍ヶ岳」「奥穂高」「蓼科・霧ヶ峰」 ・夏山「雲の平」「黒部五郎」「西穂高・南岳縦走」 ・秋山「利尻岳、羅臼・斜里」「飯豊山縦走」「小豆島」「熊野路」 「伊勢路」 ・秋山「韓国岳・北韓山・道峰山」 ・沢登りテント泊、アイスC御在所 ・第1回マイクロバス「雪彦山」22名 ・マイクロバス「赤坂山」22名 ・芦屋山まつり雨で中止 ・救命講習会20名 ・最多ハイキング参加者中山縦走53名 ・六甲全山縦走33名(会員4名)



年	会員数	月日	私達の会の動き
2006 平成18年 (会長) 川島隆雄 (副会長) 成田勝彦 (副会長) 小畑雅子 (事務局長) 成田勝彦 (会計) 西田政行	70	4月 10月 12月	・冬山「南ハヶ岳」 ・雪山と秘湯「奥鬼怒」「御在所岳」「五箇山」 ・春山「北ハヶ岳縦走」「燕岳」 ・夏山「斜里岳」「源次郎尾根」「荒川三山」「大朝日岳」「雨飾山」「尾瀬」「前穂高岳」「裏剣」「羊蹄山」 ・秋山「前穂高岳」「裏剣」「羊蹄山」 ・マイクロバス「千ヶ峰」21名 ・会報3月号よりB5版をB4カラー2面へ変更 ・創立40周年記念祝賀会(御影公会堂)朝から4コースに分かれ六甲山をハイキング、灘にある乙女塚温泉で一風呂浴びて17時より52名の参加で祝う。 ・六甲全山縦走134名(会員5名)
2007 (平成19年) (会長) 川島隆雄 (副会長) 成田勝彦 (事務局長) 成田勝彦 (会計) 西田政行	62	3月 7月 10月	・冬山「野坂岳」 ・春山「大峰奥駈」「木曽駒ヶ岳」「尾瀬」 ・夏山「苗場山」「月山」「前穂高岳」 ・秋山「石鎚山」「飯豊連峰」「阿蘇」「仙丈ヶ岳」 ・六甲全山縦走104名(会員2名)、開催月が3月に変更 ・マイクロバス「淡路島、諭鶴山」18名 ・救急救命24名 ・マイクロバス「奈良、兜岳、鎧岳」29名 ・六甲全山縦走104名(会員2名)
2008 (平成20年) (会長) 山内修作 (副会長) 松下弘毅 (副会長) 板倉喜美子 (事務局長) 合田則子 (会計) 西田政行	62	3月 4月 6月 10月 11~12月	・春山「氷ノ山」「御嶽山」「立山三山」「白山」 ・夏山「宝剣」「飯豊山・大朝日」「槍ヶ岳・北穂高縦走」「御嶽山」「木曽駒ヶ岳・宝剣山縦走」「焼岳」「会津駒ヶ岳」「鷲羽岳・黒部五郎岳」「剣岳北方稜線」「別山の岩場登攀」 ・秋山「火打山・妙高山」「三瓶山」「韓国ソラク山」「笠ヶ岳」 ・六甲全山縦走104名(会員2名) ・マイクロバス「藤原岳」21名 ・マイクロバス「伊吹山北尾根」22名 ・マイクロバス 播州「笠形山」19名 ・総会で今期より遭難積立金の一部取り崩しを承認 ・第1回歴史ハイク「明日香」18名 ・マラニック ・山行時会員参加費無料化(ハイキング200円、岩・沢300円)
2009 (平成21年) (会長) 山内修作 (副会長) 松下弘毅 (事務局長) 合田則子 (会計) 西田政行	62	2月 3月 4月 6月 10月 12月	・冬山「鳳凰三山」「御在所岳アイスクライミング」 ・春山「阿蘇山・祖母山」「蝶ヶ岳」「槍ヶ岳」「九重連山縦走」 ・夏山「鳥海山」「槍ヶ岳・北穂高縦走」「唐松岳・白馬岳」 ・秋山「飯森山・大日岳」「戸隠山テント泊」「奥秩父瑞穂山」 ・マラニック ・第1回ツレモテイコラツアー熊野18名 ・六甲全山縦走99名(会員2名) ・マイクロバス敦賀「野坂岳」18名 ・マイクロバス若狭「駒ヶ岳」25名 ・マイクロバス若狭富士「青葉山」23名 ・わが会から分離・独立した東灘労山が奥穂で3名遭難、会から6名救助隊員を登録
2010 (平成22年) (会長) 辻本雅夫 (副会長) 板倉喜美子 (事務局長) 辻本雅夫 (会計) 西田政行	60	3月 4月 6月 8月 9月 10月	・春山「大峰奥駈道」「東赤石山・西赤石山」 ・夏山「燕岳・常念岳・蝶ヶ岳」「立山三山・奥大日山」 ・夏山「常念岳・蝶ヶ岳」 ・秋山「剣岳北方稜線」「雪彦山テント泊」 ・六甲全山縦走53名(会員4名) ・マイクロバス 岡山「那岐山」25名 ・マイクロバス「ハヶ峰」22名 ・剣岳・北方稜線で8名が荒天により2日間岩棚でビバーク、ヘリで救助される ・東灘労山遭難事故の最後の遺体を発見、兄弟会として10万円供出 上記お別れ会に4名参加 ・みんなでテント泊「雪彦山」14名 ・1泊歴史ハイク「鎌倉」15名
2011 (平成23年) (会長) 川村隆志 (副会長) 川島隆雄 (事務局長) 福富孝吉 (会計) 溝辺愛子	57	2月 3月 4月 9月 10月	・春山「西穂高独標」「屋久島」 ・夏山「美ヶ原・霧ヶ峰」「剣岳山域」 ・今月より「清掃ハイク」を「近代登山発祥の地清掃ハイク」に改名 ・マイクロバス「霊仙山」25名 ・マイクロバス「敦賀三山」20名 ・マイクロバス「ハヶ崎」20名 ・労山会員カード(JWAF)更新2020年まで ・経費削減の為、家賃の軽減、コピー機の廃止、通信費節約の努力

年	会員数	月日	私達の会の動き
2012 (平成24年) (会長) 川村隆志 (副会長) 川島隆雄 (事務局長) 福富孝吉 (会計) 溝辺愛子	60	3月 6月 7月 9月	・冬山「ハヶ岳・根石岳」 ・春山「燕山」「榛名山、韓国」 ・夏山「瑞瑠山・清里」「上高地・槍ヶ岳」 ・秋山「富士山」「小豆島・寒霞溪」 ・六甲全山縦走、東北震災の二日後開催、112名の参加申し込み43名キャンセル。全体でも600名。宝塚で義援金25万円集まる ・県連から4月・10月と会員拡大の協力要請で運営委員会に計4名出席 お互い学習会や救助協力を確認。 ・マイクロバス「伊吹山」16名 ・総会で赤字体質をどう乗り越えるか討議する ・県連(石巻で作業)に参加 ・この年東北ボランティアに3回に分けて7名参加 ・運営委員会の毎週開催を月3回に変更 ・マイクロバス「岩籠山」19名
2013 (平成25年) (会長) 川村隆志 (副会長) 川島隆雄 (事務局長) 福富孝吉 (会計) 溝辺愛子	71	3月 5月	・冬山「日光・雲竜溪谷」 ・春山「ハヶ岳・硫黄岳」「白山」「表妙義山・裏妙義山」 ・初夏「伊吹山山麓テント泊・ホテル観賞と登山」 ・夏山「立山・薬師岳」「奥穂高」 ・秋山「乗鞍岳」「御在所岳」「七面山」「ハヶ岳・赤岳」「立山・奥大日」 ・六甲全山縦走43名(会員6名) ・ノルディックウォーキング始まる「大阪城公園」 ・1泊歴史ハイク「日光」15名 ・マイクロバス「マキノ高原・大谷山」15名、これ以降中断
2014 (平成26年) (会長) 川村隆志 (副会長) 川島隆雄 (事務局長) 辻本雅夫 (会計) 溝辺愛子	68	11月	・冬山「武奈ヶ岳・雪中テント泊と登山」 ・春山「荒島岳」「大菩薩嶺」 ・夏山「大杉谷・大台ヶ原」「甲斐駒ヶ岳」「常念岳」「槍ヶ岳・南岳」 ・秋山「両神山・八丁峠・雲取山」「北ハヶ岳」「奥穂岳修了山行」 ・六甲全山縦走48名(会員10名) ・2泊歴史ハイク「長崎・平戸」(16名)
2015 平成27年 (会長) 川村隆志 (副会長) 川島隆雄 (事務局長) 辻本雅夫 (会計) 溝辺愛子	74	6月 10月 11月 12月	・冬山荒天で中止、堂満ルンゼに変更 ・春山「立山三山」「仙丈ヶ岳」「表妙義山」 ・夏山「上州武尊岳」「鹿島槍ヶ岳」「岩手山・秋田駒ヶ岳・早池峰山」「新穂高・双六・槍・岳沢」 ・秋山「鳥海山」「雨飾山」「御在所岳」「燕岳修了山行」 ・自然観察「尾瀬・焼岳登山」 ・2泊歴史ハイク「函館・小樽」10名 ・県連50周年、六甲集中登山に参加2名 ・50周年記念兵庫縦断トレール浜坂から開始(16名参加、別資料あり) ・納山祭・新入会員歓迎祭時、新入会員の会費無料を今回から廃止
2016 (平成28年) (会長) 辻本雅夫 (副会長) 川島隆雄 (副会長) 池田純一 (事務局長) 尾村隆 (会計) 溝辺愛子	76	5月 8月 10月 10月16日	・冬山「北ハヶ岳」「雲竜溪谷」「県連美方高原・スノーシュー」 ・春山「北穂・奥穂」「稲村ヶ岳」 ・夏山「富士山」「継子岳」「唐松・白馬」 ・7月27日～8月8日 50周年記念スイストレッキング6名 川村氏マッターホルン挑戦 ・県連50周年記念氷ノ山登山集会に3名参加(270名) ・芦屋青年会議所主催”あしやまあるき”イベントにサポートとして6名参加 ・11日第1回山の日 ・兵庫縦断トレール最終コースの小赤壁で打上げ(27名) ・2泊歴史ハイク「平泉・角館」 ・50周年記念祝賀会を潮芦屋交流センターで祝う(72名)

* 役員名は、定期総会が10月以降に開催されていた頃は次年度に、6月開催に変更された後は当該年度に記載



アルペン芦山のあゆみ

○六甲全山縦走

1966年12月第1日曜日（75・76年のみ11月末）の県連主催の六甲全縦走に当初から参加。（神戸市主催は1975年から）95年より東半縦走。97年より西半縦走が加わる。
2007年より開催月を3月に変更した。

コースは当初塩屋スタート。その後近隣から早朝スタートの苦情があり、須磨浦からに変更。
アルペンのサポートは1980年代以降六甲最高峰山頂で現在も続いている。又、今も県連のテントやチェックポイントの道具など事務所で預かっている。当初は鶏ガラを200羽ゆでてだしを取り、そのあと残っている身をむしり取り具材にしていた。その後中華ダシに変更したが前日から野菜切りなどをして各会協力してこのイベントを支えていた。

最高峰以外にアルペンは独自に須磨浦で受け付け。半縦走が始まってからは新神戸でも受け付け開始。一般参加者が多いのは会員のM氏が全国の会社関係の新入社員教育の一貫としてアルペンが窓口になっていたから。2016年から参加者が少なくなったこともあり、2か所の受け付けサポート廃止。一番多い時はアルペン独自で一般参加者込みで163名（内会員15名）に達した。

○六甲全山縦走タイムトライアル

このコースは最初から56キロコース。1983年から1996年まで開催。第3回で参加者が500名を超え、大会運営上700名までに参加者を制限した。95年の阪神大震災の年は中止。その翌年の1996年開催を最後に、1997年市街地の自治体の反対で中止。

六甲縦走を10時間内で踏破したメンバーに参加資格が与えられた。一番早かった人は4時間15分で完走。アルペンは独自で開催日前夜に須磨浦出発点に空荷のトラック2台を待機させて、会員数名でトラックへ前泊。鍋を囲みながら次の朝に備え、参加者の荷物を1個500円で預かり、ゴールの宝塚で渡す。荷物を下ろした空のトラックは更衣室として使用した。荷物代は事業活動として財政を支えた。

○六甲山からゴミを一掃する運動（後 兵庫の山からに変更）

県連が労山の行事として清掃活動を始めたのは1978年10月から。兵庫の各会ではそれ以前に年に1～2回清掃登山として取り組みが行われていた。アルペンでも同じように早い時期からロックガーデン・高座谷などを清掃。最初は1回のクリーンハイクに100kg近くゴミがあり大変だった。

いつから地獄谷コースを始めたかは不明。古い資料では1985年はまだロックガーデンと記録されている。当初は毎月1回第一日曜日に統一行動日として一斉各会コースを決め、生ごみ・缶・瓶と分別して清掃後、県連に連絡している。2005年から2か月に1回に変更。各会のコースの変更はしていない。アルペンでは2011年から午前中地獄谷コース、午後から『近代登山発祥地コース』の名で岩巡りコースとして芦屋の背山コースを一般参加者にも案内している。

○県連主催 各会対抗武庫川駅伝大会 年表参照

1983年10月第1回駅伝開始(芦屋浜)その後武庫川河畔に変更(年不明)

アルペンの参加記録が残っているのは1986年から行事修了の1994年まで。最初の3年は資料無し。参加人数・成績表は年表参照。ただし3位の記録が今回発見できなかった。

○登山バス(1泊・2泊) 行き先は年表参照。

1970年に創立4周年記念登山バスとして年表に記載されている北ハケ岳が最初。その後74年に分離独立後も引き続きわが会の目玉行事として2000年まで継続していた。一番多い時はバス2台で100名近くが参加。財政的にもわが会の赤字を払拭し、最終的には遭難対策基金として400万円まで貯蓄するのに貢献した。

金曜日の夜出発。車中泊。登山口を早朝スタート。そのまま山小屋1・2泊。下山してそのまま帰芦。みんな若かった。九州から北陸まで行けた。

赤字は1997年の男体山1回だけ。人数が集まらなくなり金曜日出発に変更したが赤字。2000年の蓼科山を最後に、泊を伴う登山バスは再開できていない。

○芦屋浜 ファンラン(ダイエーカップ) サポート 写真参照

ハイキングは参加者を何組かに分け、前後に2・3人がついて芦屋浜から芦屋霊園・最長はゴロゴロ岳をピストンサポート。浜1周マラソンは分岐ごとに各2人で何か所かでコース案内。

サポート代が魅力で一人5000円。半分を懇親会で終了後盛り上がり、残り半額を事業費として会に収めた。

○芦屋アースディ 写真参照

1969年ユネスコで地球環境について考える日として提案され、4月22日が当初知られていた。アルペンとして芦屋の各団体と実行委員会を組んで参加した。

記録が出てくるのは1993年から1997年まで。JR 芦屋駅の2階北側テラスに岩登り体験としてボードを設置。子供達に岩登り体験をしてもらう。山の道具・装備・写真などを展示してアピールに努めた。

○芦屋山まつり 写真参照

ハイキングや野外活動などを通じて自然に親しむ行事として2016年第52回芦屋山まつりが芦屋奥池で開催されている。アルペンが参加したのは1998年から2004まで。ハイキングは他会が受け持っていたので、アルペンはアースディの後行事としてボードで岩登り体験を実施。他の参加者から養生して木にくくっていたロープが、自然に悪いとクレームが付き参加を断念。

○日帰り登山バス 行き先は年表参照

宿泊登山バスが蓼科山を最後に2000年に中止。それに替って2005年から福富氏が中心になり、日帰り登山マイクロバスを年3～4回開催。2013年まで取り組まれた。

参加費を安く設定して皆に喜ばれる。現在開催は中断している。

○歴史ハイク 宿泊ハイクのみ年表参照

会社を60歳定年になり、家内の濡れ落ち葉にならないようにと始めました。この10月の平泉・角館で33回目を迎えます。高校時代から好きであった日本の歴史を1月、4月、7月、10月の年4回（資料作成と下見の為3ヶ月毎の間隔）、飛鳥時代（2008年10月スタート）から近・現代まで時代を下る形で各時代の特徴的な地域を巡り、その地域の歴史を紹介する形で行なっているハイキングです。

東郷記

○語り部と行くツレモテイコラ熊野ツアー（年表参照）

会員の熊野の語り部、瀬さん主催の熊野古道案内。

わが会は泊りがけで何度も熊野古道は開催していたが、上記の名前で始まったのは2009年2月が第1回。年1・2回現在まで毎年開催されている。

○事務所の変遷

1966年	創立時	会員三浦氏の自宅（芦屋市）を事務所として借用。
1967年	打出浜町	深山荘内（会員山本氏の山の店）に移転
1970年	1月から3月	打出浜町 三浦方
1970年	4月から1974年5月まで	前田町 萩原方に移転
1974年	6月	前田町から茶屋町 竹中方へ
1977年	6月	大柵町へ（三八通り山田宝飾店所有の文化住宅2階へ） 6畳板の間の台所・トイレ付（風呂無し）・3畳
1995年1月	阪神大震災で事務所全壊	5月まで建築事務所を転々して開催？
1995年5月	川西町サウザンドビル	地下へ（元ディスコ会場） 約400㎡
2004年11月	同上	2階 205号へ 27㎡
2016年12月	現在に至る	

○会の呼び名について

創立時 「芦屋勤労者山の会」とした理由 山岳会にすると一般の人には恐ろしい山行をするイメージを与えるという事で「山の会」になった。（機関紙100号記念から）

1972年5周年で会名を芦屋勤労者山岳会と改名

1981年より親しまれる会を目指して会の愛称を「アルペン芦山」とする

1984年総会で正式名称を「アルペン芦山」とする

現在に至る

○総会議案書の号数が途中で変更した理由

1990年16回総会まで、分離してからの番号になっていたが、1991年25周年を機会に

1966年からの通し回数に戻し、1991年17回総会を25周年に合わせて25回総会とした。

よって2016年の議案書は第50回議案書になっている。

(初めてこのコースに行くかたはコース経験者の案内に従って下さい・
またはアルペン芦山主催の同コースのハイキングに参加してみるのがいいでしょう)

日本の近代登山発祥の地芦屋ロックガーデンの全体をとりあえず1日の行程で知ろうというコース。(いいとこどりコース。の案内です。)ただし、道は道標はありませんので経験者に案内してもらって下さい。(アルペン芦山では年6回ていど案内しています。ご参加OKです。)

(コース)
飯急芦屋川駅～高座の滝・お堂前(茶店2軒・トイレ有り)～地獄谷入り口～根性岩(蛙の形)
～小便岩～A懸岩～ピラーロック～万物相～風吹岩～横池(人数が多い場合はここで昼食がよい)
～荒地山へ分岐～荒地山～岩梯子～キャッスル岩～高座谷～イノシシ広場～中央観音板(見晴らしところ)
往復
～高座の滝～飯急芦屋川駅
(タイム)
飯急芦屋川から高座の滝までは約40分40分程度です。すなわち舗装道と林道です。
高座の滝から登り風吹岩までは1時間40分程度。横池まではさらに15分。
横池から荒地山を巡り高座の滝までは1時間40分程度。高座の滝より芦屋川までは35分。
(計5時間)



1075712-12

-17-



1984.05
春山（穂高）涸沢ベースキャンプ



1984.12.29-1985.01.02
冬山 槍ヶ岳



1986
冬山合宿 ハヶ岳



1986.10.19
兵庫県連 駅伝大会
1区-辻本、2区-富永、3区-川島、
4区-塩谷、5区-西谷、6区-川村



1988.02.21 植樹祭



1988.08.12.15
夏山合宿 穂高



1988.10.08-10
登山バスで甲斐駒ヶ岳



1989.07.01-02
登山バスで御嶽山



1989.10.08
下の廊下（松山、岩佐）



1990.06.09-10
登山バスで大山



1990.10.14
県連25周年記念「インドヒマラヤ
ガンゴトリ遠征」隊の帰国の出迎え



1991.11.17
兵庫県連 駅伝大会



1993.
'93芦屋国際ファンランウォークサポ
ート



1993.04.18
アースデー芦屋に参加



1993.05.23
第3回兵庫の山々 一斉登山
大峰山（会員11名、一般3名）



1993.11.14神戸いちばん物語
RC緊張と解放 自然を肌で
(読売新聞)



1994
武庫川清掃ハイク



1994.06.17-26
スイス



1999
第38回あしや山まつり
RC体験コーナー



1999 秋
登山バス谷川岳



2002.08.04
ボーイスカウト岩登りサポート

ボーイスカウト第13回太平洋地域ジャンボリー
近代登山発祥の地 六甲山 蓬莱峡の岩登り体験
2002年8月4日(日) アルペン芦山の協力と指導



アルペン芦山広報部 Y. さん撮影

<共同通信ニュースより>
①スカウトが岩登り体験 六甲山・蓬莱峡で
兵庫県西宮市の六甲山系・蓬莱峡にある岩場で四日、ボーイスカウト約六十人が
ロッククライミングを体験した。
三日から大阪市此花区の人工島「舞洲(まいしま)」を主会場に行われているボー
イスカウト日本連盟の第十二回日本ジャンボリーの行事の一つ、兵庫県芦屋市の山岳会
「アルペン芦山」(川村隆志会長)が協力し岩の登り方を手ほどき、安全ベルトを付
け、ザイル(ロープ)を結んだスカウトら(1府県、ひょうご)岩と呼ばれる高さ約二十一三十
メートルの岩場に次々と挑んだ。
「へばりつかないで体を岩から離して」「手掛かりをよく見て」などとアドバイス
の音が飛び、ヘルメットの下で顔は緊張し、汗だく。
見事に登り切った芦屋市の坂井勇太君(11)＝小学六年＝は「思ったより難し
かった」と笑顔で語った。
スカウトには「蓬莱峡岩登り認定証」が手渡された。(了)

2002.08.04
蓬莱峡の岩登り体験(共同通信ニュース)



2006.10.01
アルペン芦山40周年記念祝賀会



ストレッチ体操



1991. 2.
さくら100本植樹記念



岩登り 蓬莱峡 2016年5月22日



岩登り 堡塁岩 2014年9月28日



沢登り 鈴鹿 神崎川
2016年7月31日



沢登り 台高山系 唐谷川
2015年9月27日



春山 北穂高岳・奥穂高岳
2016年5月1日～4日



春山 立山三山
2015年5月3日～4日



夏山 鹿島槍ヶ岳

2015年7月18日～20日



夏山 岩手山 秋田駒ヶ岳 早池峰山

2015年7月28日～8月2日



冬山 伊吹山

2015年2月11日



ハイキング 金勝アルプス

2016年5月22日



ハイキング あじさいハイク（神戸森林植物園）

2015年6月28日



清掃ハイキング 地獄谷～ピラロック～風吹岩

2014年4月27日



バスハイキング 敦賀三山 岩籠山 インデアン平原
2012年9月16日



バスハイキング 敦賀三山 西方ヶ岳～さざえ岳
2011年4月29日



第21回 歴史ハイキング 「日光」東照宮前
2013年10月12日～13日



第25回 歴史ハイキング 幕末「長崎・平戸」
2014年11月1日～3日



ノルディックウォーキング “万博記念公園”
2013年4月29日



ノルディックウォーキング “飛鳥を行く”
2016年9月22日

兵庫縦断トレールの開拓

(アルペン芦山創立50周年記念事業)

兵庫縦断トレール実行委員会

1. 計画の発端

2015年の5月ごろだっただろうか、来年は当会の創立50周年にあたるので、どのような記念行事をするか検討してほしいという川村会長（当時）の話が運営委員会で出たことが発端である。丁度その年の6月に尾瀬の燧ヶ岳に水芭蕉の鑑賞も兼ねて出かけた。長蔵小屋での雑談のなかで、会員全員が参加できて、しかも記録としてもある程度価値のあるような山行が計画できないだろうかという話が出た。その中で兵庫縦断のアイデアが出てきたのである。下山後、その時にいた辻本氏（現会長）、市居さん、戸田及び新たに尾村氏（現事務局長）も加わり、運営委員会の承認も得てこの4名で「兵庫縦断トレール実行委員会」を作り、具体的な検討に入った。

2. 計画の基本方針

委員会ではまず基本方針を以下のように定めた。

- (1) 兵庫県は日本海と太平洋（瀬戸内海）にまたがる本州唯一の県であり、この特色を生かして日本海から瀬戸内海まで出来るだけ車道を通らず、山をつないで歩くトレールを開拓する。そのため、登山道の無いところは藪尾根もいとわない。
- (2) 全体を約10区間に分けて出来るところから順次実施して最終的に一本のトレールを作る。初心者や高齢者も参加できる簡単な区間や山中泊を伴うやや厳しいものまで、多様なコースとする。
- (3) 記念行事なので出来るだけ多くの会員が参加し、全員で作り上げたトレールとなることを目指す。具体的には兵庫県の誇る名登山家の加藤文太郎の生地である日本海に面した浜坂から姫路の小赤壁公園までとし、途中には兵庫県の最高峰である氷ノ山や日本分水嶺を含むコースとすることとした。

3. コースの選定

まず兵庫県全図で大まかなルートを決め、更に5万分の1の地形図でルートの概要を決めた。ただ地形図は古いものも多く、電子版の2万5千分の1や、インターネットの情報、各地の観光協会、役場の観光課、森林管理所等々へ問い合わせで情報を集めた。一番の問題は大半の場所はガイドブックがないので、所要時間が判らないことである。林道の場合は距離さえ判ればほぼ予測は着くし、登山道が整備されておれば、ある程度の予測はつくが、藪尾根の場合は藪の酷さの程度によって全く時間が異なるし、また道を間違えることはある程度避けられないので、そうしたロスタイムをどう見込むかという問題がある。さらに、北部の区間では登山口までのアクセスに時間がかかるので、日帰りは無理で宿泊は避けられないが、適当な宿泊場所があるかとか、そもそもアクセス自体が非常に不便でバスが期待できないとか、タクシーを使うにしても駅からの行きは良くても、帰りは携帯が通じないところも多く、駅から呼ぶのも大変等、とにかく計画の立案が大きな課題であった。全員で情報を集め、計画するということはやり始めてみると、結構楽しいものであった。登り口が判らない場所は事前に偵察に出かけた。

4. 山行の記録

以下に山行の記録をまとめる。（第1区間のみ2015年）

第1区間 11月21日～22日（1泊2日 民宿泊）

浜坂の矢城ヶ鼻灯台—千々見山—池ノ尾林道—牛ヶ峰山—鳥越峠—海上 16名

第2区間 6月10日～12日(2泊3日 避難小屋泊)

海上一上山高原—扇ノ山—東因幡林道—赤倉山—氷ノ山—分水嶺尾根—若杉峠 8名

第3区間【その1】5月14日～16日(2泊3日 民宿泊)

若杉峠—藤無山—富士野峠—笠杉峠 4名

第3区間【その2】7月6日(日帰り)

笠杉峠—段ヶ峰—千町峠—川上 3名

第4・5区間 4月23日～24日(1泊2日 ホテル泊)

川上—砥峰高原—峰山高原—雪彦山 5名

第6区間【その1 順コース】5月4日(日帰り)

雪彦山—南尾根—小畑トンネル 4名

第6区間【その1 逆コース】4月9日(日帰り)

小畑トンネル—雪彦山 8名

第6区間【その2】7月16日(日帰り)

小畑トンネル—明神山—岡村 4名

第7区間 2月27日(日帰り)

岡村—夢前川東岸連山—置塩城—宮置 5名

第8区間【その1】6月18日(日帰り)

宮置—鞍掛山—清水橋—玉田 6名

第8区間【その2】9月25日(日帰り)

玉田—増位山—姫路駅 11名

第9区間 10月9日(日帰り)

姫路駅—仁寿山—小赤壁公園 27名



5. まとめ

山行回数12回 山行延日数18日 山行参加者延べ137人・日 参加者38人。

コースの48%がバリエーション。

車道は7%。第8の2、9区間を除くとバリエーションが53%、車道は4%（所要時間比）と所要時間の半分以上は道が無いトレールである。

会の総力をあげて、こうしたプロジェクトを完成することができたことは、大きな成果であった。

このトレールには登山に要求される様々な要素が含まれており、また人の手の入っていない素晴らしい自然を堪能することができる。特に北部のブナをはじめとする豊かな自然林は特筆に値すると思う。今後とも様々な形でこのトレールが活用されることを期待したい。なおこのトレールの完成報告書は50周年誌とは別に発行予定である。

最後になりますが、ご協力いただいた会員の皆様に感謝します。

マッターホルン登頂とスイスアルプストレッキング



50 周年記念式典



集合写真



「アルペン芦山に入ってよかった」

有川 貞雄

一人での山行は限定されてしまうが、アルペン芦山に入って、知らないところにもあちこち連れて行っていただき、良かったです。

体力の関係で例会のハイク参加がなかなかできませんが、日常、会の方とも何人かお付き合いさせてもらって、とてもよかったと思っています。

「セミナーで入会」

安藤 亮一

昨年のセミナーを機に入会させていただきました。

個人ではできない経験をさせていただき、山の楽しみ方が広がりました。

なかなか会の山行に参加できていませんが、50年の歴史を持つ会の先輩諸氏からご指導いただきながら、さらに山を楽しみたいと思っています。

「50 年前の思い出」

池田 純一

アルペン芦山は今から 50 年前に産声をあげた。私が 16 歳、高校 2 年の時である。

夏休みに学校登山で北アルプス表銀座縦走が行われ、私はそれに参加した。

山やスキーが好きだった父親の影響もあって小さい頃から山には馴染んでいたが、本格的と云える登山を経験したのはこの時が最初であった。

中房から上がって新穂高へ下る 4 泊 5 日の行程だったが、今でも思い出すのは、

- ・父が『これで行ってこい』といって愛用の小ぶりのザックを私に譲ってくれた事、
- ・山小屋に泊まるのに料金以外に米持参だった事。
- ・一枚の布団で雑魚寝した事。
- ・夜、星が地上で見えるより何倍も沢山、しかもはっきりと見えた事。
- ・真夏でも縦走路に雪が残っていた事。
- ・案内人がその雪をピッケルでガリッとやって見せてくれて本当に恰好よく見えた事。
- ・縦走路の遥か向こうに鋭く尖った槍ヶ岳を初めて見た時の興奮。

近づくにつれ小さかった穂先がだんだん巨大になって圧倒されそうになった事

- ・ガチガチに緊張して登った槍の頂上で、先生から周りの山の名前を一つ一つ教わった事。

- ・山小屋の屋根が何故かどれもみな赤さび色だった事。

- ・風雨のなか下山、ポンチョが捲れ上がってずぶ濡れになった事、 などなど

50 年前を思い返してみても、この学校登山での体験や感動がその後の自分の山との関わり
の原点であったと改めて感じる次第である。

「ふり回り」

板倉 喜美子

山を始めて早30年。初めての地獄谷に連れて行かれ、恐くてドキドキ。友人からちょっと離れると“待って、ちょっと待って〜”ばかりでした。その頃新聞で知った県連の主婦のためのハイキング講座を受け夏山アルプスデビュー「運動靴でいいですかあ〜」の質問に10年早いと言われ、何でかな？何も知らない頃の私はそんなでした。

それからアルペンに入り3,000mの岩稜帯を歩くには基本的な岩登りをしたほうがいいよ！と言われ、始めたのが病みつきとなりアルペンからマルチ春山・冬山とエスカレート。

それには今は亡き友人にしごかれ「ブイブイ」言いながら付いて行ったな。お蔭さまで次の山を目指して自ずからトレーニングに励み体力・技術の貯金もでき、あちこちと行ったっけ。最後は33日間6,000m級のアイランドピーク、氷の山でした。今では年齢と共にその貯金も薄らいでポチポチの世界。あと5年でも若かったらなあと思うけどガタがきている今はそれにあった山行をしているのである。

「スポーツとしての登山」

市居 よね子

何故山に登るのですかはよくある質問で、自然に触れる、緑に癒される、頂上についた達成感などがよくある答えです。山歩きの好きな人は山の自然が好きなだけでなく、山歩きが性格に合うことが多いのです。「運動」として登山をとらえてその特徴を考えてみました。ここでいう登山とは近郊の山に登る日帰りハイキングのことです。

第一に思うのは単純さです。右足、左足と交互に足を出すだけでよく、坂を上るときも下るときも、ひたすら交互に足を出して歩けばいいのです。手も足に合わせて動かすだけでよく、球技のようにボールに合わせて右、左と素早く動いたり、手を上げたり下げたりしてボールを取る必要もありません。

次に全員優勝ありということ。目標は頂上到達と無事帰着ですから、全員頂上に登り達成感を味わって帰ってくることができます。足の早い遅いは多少あっても譲り合ってペースを合わせるので全員達成となります。勝ち負けを争って優勝者は一人ということはありません。

最後に一人でも大勢でも楽しめることが挙げられるでしょう。他のスポーツなら練習するときでも、複数のメンバーが必要になります。登山なら大勢で登る面白さは格別ですが、一人でも（アルペンは単独登山は六甲山のみ）楽しめます。昨今の「ぼっち」時代に一人でも登れるので山ブームが起きたのかもしれません。

以上思いつくまま挙げてみました。皆さんのご意見を是非伺いたいものです。

「アルペン芦山」との出会い

伊藤 松子

山が一番、お酒が二番、三、四が無くて五に歌「カラオケ」、
こんな私の「アルペン芦山」との出会いは？

三十年間日本各地の山を楽しみ、六十才の後半にある出来事から体調を崩し、もう二度と山はだめと山装備を友達に譲り、三年のブランクの後、新聞を見て「アルペン芦山」に一般として参加していました。

入会資格は七十才までとの事でしたが、合田さんのお声がかりで特別入会が認められました。そのお陰で沢山の仲間と山と自然に又出合えて日々楽しんでいます。
有り難うございました。

これからは「現役女性最高齢シニアの星」として皆さんの足手まといにならないように頑張ります。

よろしくお願いします。

「50 周年おめでとうございます」

井原 恒子

私がアルペンに入会させて頂いたのは震災の年にあった登山バスです、それまで市民ハイクを幼な友と毎月歩いていましたが震災で友は亡くなり 私はただ歩きたくひょんなことからアルペンの登山バスを知り参加したのがそのためのトレーニングハイクでした。登山バスが数年でなくなり寂しくなりました。後 色々な山行に誘って頂き本当に沢山の思い出を頂きました。

四国88ヶ所 お伊勢参り 中山道（今は岩村田まで）

会員さんとご一緒に歩かせていただき楽しく良い経験をさせて頂き感謝しています。

美味しいとこ取りの私ですがもうしばらく会員でお願い致します。

「山の話は楽しい」

上田 史子

六甲山でチラシを拝見したのがきっかけでお仲間に入れて頂くこととなりました。

アルペン芦山と同年なのに久々の新入生という立場で色々戸惑うこともあります。諸先輩からお聞きする山の話は楽しいです。

これからも宜しくお願い致します。

「ハイキングセミナーに参加して」

上田 泰司

私は平成二十六年度の「ハイキングセミナー」に新聞の「お知らせコーナー」見て参加させていただきました。申しこみの時に、年齢が高いのですが大丈夫ですかと質問すると、「山を歩いてもらって判断する。」と言われ、ドキドキでしたが、入会の連絡をもらった時はホッとしました。

セミナーでは、第一回目は座学でテキストを使って、山歩きの基礎を学ぶとともに、山での事故への備えや救急法等も教えていただきました。二回目からは山に行って、体験しながら足への体重のかけ方や山道での譲り合いや優先順位などを指導していただきました。私にとっては、沢登りやロッククライミング・シャワークライミングなど、初めての体験ばかりで不安と恐怖の連続でしたが、指導者の皆さんが親切に楽しく教えて下さったおかげで、一つ一つの技術をクリアーすることが出来ました。指導者の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

そして、終了登山は2泊3日で北アルプスの奥穂岳に行きました。涸沢から奥穂高山荘までの登りは本当にきつくて、もうだめだと思う時が何度かありましたが、同行してくださった会員の方に励ましていただき、奥穂高岳の山頂(3,190m)に立つことができました。山頂からながめたアルプスの山々の雄大さ、早朝、奥穂高山荘の前から見た、御来光のすがすがしさは一生忘れられない景色となりました。

今後も健康管理に注意しながら、トレーニングを積み、例会に参加させていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

「アルペン芦山創立50周年を迎えて思うこと」

尾村 隆

誠におめでたいことです。

50年前の1966年といえば、東京オリンピック（1964）が終わり、次は大阪万博（1970）という華やいでいた時でした。

それから50年。その間、いろんなことがあった・・・。

そして、リオオリンピック（2016）の閉会式を見た。カラフルな華やかな式典に、顔、顔、顔。今回の重要なテーマはダイバーシティだ。いろんな人達が好い表情をしている。しのぎを削りあった選手たちが一つになって健闘を讃え合っている。メダルを持った選手、持っていない選手、結果を出せた人、また、出せなかった人もいるはずだ。人々が心に抱いている思いは各自各様だろう。いろんな思いを抱いた人々が、そして自由な雰囲気の中で集って輝いている。中にはロンドンに集った人もいる。どこかの国のような見栄えのある統制はそこにはない。心のうちには人それぞれの総括があり、次に向かって決意していることであろう。そして大勢の人達がおそらく同じ志しと期待を持って東京に集うとする。そんな終わりの始まり、始まりの前が好きだ。山においても。

「テント担いで」

江口 保

50 年か～。私もそんな時から山やってたらアルピニストになれてたかな～。
よーしテント担いで山に登るぞ。

「アルペン芦山とのかかわり」

大石 達郎

アルペン芦山の創立 50 周年おめでとうございます。
若い頃は仕事と家族の事ばかりで、まったく山のことなど考える余裕もなく時間だけが過ぎて行く毎日でした。
運動不足の解消にと偶然新聞でアルペン芦山の山歩案内を見て参加したのが始まりでした。
諸先輩の皆さんには山の基礎知識をいろいろご教示いただいた事も多く、何よりも楽しくお付き合いいただき大変嬉しく思っています。
山以外に音楽とギター演奏という大好きな趣味があり、アルペン芦山の会員の中にもたくさんの音楽好きな仲間がいる事も分かり、会の活動を通して場を盛り上げる意味で皆さんと共有して楽しんで行けたら幸いに思います。
これからも山を愛する皆さんと引き続き元気で楽しく山行が出来るように願っています。

「アルペン芦山 50 周年に寄せて」

太田 幸子

2013 年に「アルペン芦山」へ入会しました。
50 歳頃から 10 年近く、ツアー登山で山に登ってきました。自然が好き、山が好きになりました。誰でも気軽に登れるツアー登山で事故が次々と起こり、ツアーで登山することに少々疑問を持ち始めました。
自分の力で山へ登りたいと思うようになり、アルペン芦山へ入会したのです。しかし、山の会がどういうものか十分に理解しないまま入会して、ご迷惑をかけていると思います。
植物観察なども違う会でしていますが、この夏に「憧れの剱岳」に登り、やっぱり山へ登ることが楽しいと思いました。登らなければ出会えない大自然、テント場での満天の星、お花畑の美しさ、美味しい空気や水、そして、登ったという達成感！
素敵な先輩方や仲間に出会い、共に山を歩き、助け合い、思いを語ることでたくさんの学びがあります。

消極的な参加の仕方をしていましたが、これからは積極的に主体的に参加することが私の課題と考えています。自分が登りたい山へ皆様と一緒に登りたいです。体力は年々低下していくと思いますが、先輩方をお手本にして努力していくつもりです。

「登山のバリエーション増やしたい」

大西 健夫

六甲山の麓に引っ越してきて、はや16年が経過します。それまで登山には興味なく、なぜしんどい思いをして、山に登るのか不思議でした。東灘区に住みようになって、たまに芦屋ロックガーデンなど登山することもありましたが、登山が生活の中で習慣化することはありませんでした。

5年ぐらい前に、屋久島や富士山などに行ったりして、少しずつ、登山に楽しみを見出すようになり、平成27年に、アルペン芦山の登山セミナーを受講し、そのまま入会させていただくことになりました。今後は、沢登りや、テント泊など、登山のバリエーションを増やしていきたいと思います。よろしくお願いします。

「五十周年おめでとうございます」

岡本 公子

子供の頃から運動の苦手な私はどんな運動も、中々続きませんでした。そんな中、山登りだけは徐々にですが続ける事ができました。

そして、去年この会に巡り会えて、山の魅力と、元気な皆さんに刺激を受け頑張って登りたい、歩きたいとの思いが強くなりました。

アルペン芦山に入会出来、大変嬉しく思っております。

皆様方の献身的な働きで、この会が五十年続けてこられたのだと思います。

これから益々の発展を祈念いたします。

「入会して、もう、36年です。」

鬼塚 孝二

《私が入会したのは》1980年です、もう、36年目に入ります、今では一番古い会員になってしまいました、

《入会したきっかけは》

春山登山教室でした、会費は、5回の講座で、¥500ーでした、終了山行は雪の残る、伊吹山でした。

《思い出》

①クリーンハイクでは、年11回あり、一回のクリーンハイクで、100Kg 近くもありました、このころは、ごみを、埋めて帰るという事が普通の時代でしたので、雨が降るたびに、ごみが顔を出していました。

②ロックガーデン階段化の反対運動です、高座滝から風吹岩までを、ハイヒールでも登れるように、階段を作ろうというものでした、ロックガーデンの入口あたりが階段になっているのはその当時の工事の後です、下部の処だけが出来、労山が全力での反対運動は終わりました。

《面白いこと》

今一番面白い山行は、沢登りです、夏の暑いときの水遊びは最高です。

《会員に言いたいこと》

私たちのいる会は、好きなことをして、みんながボランティアで成り立っている会です、何か一つ、会で、ボランティア、会内の役、県連の役など、出来ることをしてください。又、連れて行ってもらおう山行から、連れて行く山行へととなって、楽しく安全に、本気で遊んでください。

「山との付き合い」

川島 隆雄

今年（2016年）、アルペン芦山の創立50周年の節目を迎えます。

これまで多くの方が関わり、絶える事無く山登りを続け、迎える50周年です。

人類で初めて、世界最高峰であるエベレストに登頂成功した、エドモンド・ヒラリーは、「人生は登山」と語ったという。

普通に解釈すると、人生は上り坂ばかりで、困難な道を行く、というイメージ。

でも、私はちょっと違った解釈をしています。

山に登る人が、登山、イコール苦難というのはちょっと違うんじゃないか、と思います。

山登りをする人が、一番うれしい瞬間はいつだと思いますか？

頂上についた時…でしょうか？

頂上についた時も嬉しいんだけど、もっと嬉しい瞬間があります。

私だけなのかもしれないので、すべての人に当てはまるかわからないけど、見通しの悪い道を必死に登っていると、急に開けたところに出る時がある。あと、登っているときは基本的に足元を見ているんで、顔を上げると、不意に周りの風景が良く見える時がある。

その時に突然気がついて、「もう、こんなに登ってきたんだ」

一歩一歩必死に登ってきただけなのに、気づいてみるとものすごい高いところに来ている。これが、登山の嬉しい瞬間だと個人的には思う。

これって人生も同じじゃないかと思います。毎日必死に働いて、その日その日を一歩一歩登っていく。そして、顔を上げると、いつの間にか「それなりのこと」を成し遂げている。

だから、最初から頂上ばかりを見ないで、まずは一步一步着実に何かをしていくこと。
これが人生も登山の秘訣じゃないかと思います。頂上を見るのは、最初だけ。一回見たら、後は足元を見て、一步一步踏みしめて登っていくだけ。焦る必要なんて無い。
と最近は思うようになりました。
65才の私ですが、アルペン芦山と一緒に登山を愉しみたいと思います。

「ガンゴトリⅢ峰登頂」

川村 隆志

アルペン芦山に入会して嬉しかった事は色々ありますが、やはり、兵庫県連盟25周年事業としてヒマラヤ山系 ガンゴトリⅢ峰（6,577m）に登頂できたことが一番の思い出です。世界で三番目、日本人では初めての登頂でした。

又、春夏秋冬を通じ、アルプスのバリエーションルートに挑戦できたこと。そして其れなりの成果が出来たこと。山仲間にも恵まれ、長年に渡り怪我もせず現在に至っている事は大きな喜びです。

一方、残念な出来事も何度か経験しました。私がリーダーを務めた剣岳北方稜線で、8人が県警ヘリに救出されたこと。搜索活動も空しく、連盟傘下の事故で多くの知人を失ったことです。

しかしながら、人生の大半を登山活動に関われたのは、アルペン芦山の会員であった賜物と思って感謝しています。

これからも会員皆様と共に登山を楽しみたいと思っています。

「1年で多くの経験」

神田 泰彦

アルペン芦山に入会後まだ約1年の新参者ですが、六甲全山縦走、兵庫縦断トレール、岩登り、アルプス登山などこの1年だけでも多くの経験ができました。

以前より山の楽しみ方の幅が広がり、入会してよかったと実感しています。

入会のきっかけとなった登山セミナー主催の川島さん、登山の技術や知識を丁寧に教えていただいた先輩方、一緒に山行やイベントに参加したセミナー同期生の皆さんに感謝です。これからもアルペン芦山の活動を通じて楽しみたいと思います。



「50周年を迎えて」

岸本 宏

50周年を迎えるという事は素晴らしい事です。心から喜んでいます。
生まれつき虚弱体質の私が会に所属しているお蔭でこの歳（85才）まで山歩きを続けています。諸先輩や会員の皆さんに感謝しています。

これまで北から南まで色々な山へ行きました。古い写真や手紙を繰ってみると、それぞれの情景が浮かんできます。辛い目にあった山行（2004年2月、伊吹山で足が吊る）もありますが、どれも懐かしい思い出です。

このところ新しい会員が増えています。又、会の活動も多岐に亘っており心強く感じています。更なる歴史を積み重ねて60周年、70周年に向かって進んで欲しいと思います。

私としては気力体力が許す限り少しでも長く会員の皆さんと一緒に楽しく歩きを続けたいと願っています。

「アルペン芦山の皆さまありがとうございました」

玄番 信

50周年おめでとうございます。私が会に入ったのは2001年、15年間お世話になっています。

例会ハイキングに始まり春山、夏山、真似事ながらアイスクライミング、岩登り、沢登りとあらゆるジャンルに首を突っ込んで楽しんでできました。

沢山の山のお仲間もできました。体力の衰えと闘っている矢先に堡壘岩の登降路で頸の骨を折る大怪我を負ってしまいました。昨年11月10日から今年の6月4日まで7か月近く入院しましたが、病院の職員さんが感心する程、たくさんの方がお見舞いに来てくださり、励まして頂きました。ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

「アルペン芦山に入会して」

合田 則子

アルペン芦山50周年おめでとう！40周年の時にあと10年は？と想像したのですが、足腰が衰えて人生思うようにはいかないと実感しています。43歳でこの会を知り、入会。30年には満たないが継続している趣味として一番長続きたことになります。

六甲全山縦走を歩いてみたいなーと漠然と思って入会。入会した途端、各種ハイキング、岩登り、沢遊び、登山バス、春夏秋冬の登山。雪の温泉、韓国トレッキング等すべて初級クラスですが参加できたこと。その他年表に記載されている

あらゆる行事にも一度は顔を出してお手伝いできたことが、何よりの自慢です。先日川村氏から、せっかく総合山岳会に入会したのだから、貪欲にレベルアップを目指して！いつまでも初級では困ると言われて、ハイキングのリーダーは何度もさせて頂きましたが、他はみな後ろから付いていくのが精一杯だった私。申し訳なかったと思うのですが、全山縦走も神戸市を含んで10回完走。これが阪神大震災の自宅全壊。乳がん手術、アキレス腱断裂、交通事故等自己責任の怪我也有りですが、空白も中に挟んで復活できたので、新入会の方にハプニングが起ころうともどうぞ長くアルペンで活躍していただきたいと切に希望します。

「月/1回例会に参加」

小林 康夫

入会以降必ずしも優等生ではなく、「山行通知」もせず、一人で好きに行動する素行不良でしたが、多少皆様とともに行動する習慣をつけたく、心を改めております。

数年前から脊柱管狭窄を患い、山行き（ハイキング）はその痛みを克服する試練と捉えており（山田昌吾さんの受け売りかな？）、痛み止めを飲んだ山行がもう2年続いています。

現在8週連続でルートを変えて金剛山系に週参しております。すべてのルートを歩き、樹木の名前を頭に入れるというのがモチベーションになっています。入会して以来会員の方々から、はっとする示唆を頂き大変勉強になっています。

今後は月に1回は山歩案内に参加しようと思っています。今後ともよろしくお願いします。

写真はこの夏行きました礼文島からの利尻山の眺めです。



「岩や沢は楽しい」

笹木 隆英

入会したきっかけは、山に興味があり、六甲山を登っていたら、アルペン芦山のチラシがあり、山の事を勉強したいと思い入会しました。

入会して良かったことは、本格的なバリエーションに興味はなかったが、沢や岩をしてみても、楽しさが分かり、興味が広がった。

山の会と言えば、ハードルが高いイメージがあったが、初心者向けに気軽に楽しく参加できるよう門戸を広く開けてくださっていたのが、とても良かったです。

「腰痛対策から本格化」

杉本 良明

2008年の春ごろ腰痛がひどくなり、整骨院に行ったところ、施術してくれた院長に、「杉本さん、こりゃちょっと、運動しないとイケませんな」と言われたことが山歩きを始めたきっかけです。今に至るも腰痛は出ますが、山歩きをすると軽快します。しかし、さぼるとギックリ腰になったりします。だから止められません。腰痛対策や健康づくりが目的で、長らく六甲山や生駒山を週一で単独行すること続けて来ましたが、2015年の春ごろ、高座の滝で芦山の登山セミナーのチラシを見つけました。これがきっかけで会員の皆さんと一緒することになりました。

新入会員なので、今のところほぼ会の山行についていだけですが、最近自分で企画



したのは熊野古道のツアーです。会社の同僚と、初回は中辺路からの三社と大日越え、2回目は大雲小雲取越え・赤木越えを歩きました。次回は高野山から小辺路を歩く予定です。世界遺産になったお陰で、山道で出会うのは7～8割が外人です。関西からの登山客は驚くほど少ないです。まだの方はぜひ熊野古道も歩いてみてください。（那智滝にて）

「27年、仕事にも生かし」

瀬 喜代子

アルペン芦山の50歳の誕生日おめでとうございます！名簿を見ると入会は、1989年、何と27年前です。今は亡き田中真砂子さんに誘われて御嶽山への登山バスに参加したのがきっかけでした。

2年前に40年以上の会社員生活に終止符を打ちましたが、そんなに長くお勤めできたのも、山で日常生活から離れ、森林浴や、山の仲間との交流で気分転換できていたからだと思います。退職の10年以上前から会社に勤めながら熊野で語り部をし、それが現職の通訳案内士のお仕事につながりましたが、それもアルペン芦山での活動があってからこそ。

今後もアルペン芦山の発展を願ってやみません。最後に各役員の皆様に日頃のご尽力に対してお礼申し上げます。



「今後の山歩き」

高森 宏一

山歩きを始めて20年目に入ります。きっかけは急性腎炎が治り医者から運動をしても良いとの事でバドミントンを再開すると言うと駄目との事で歩く事を選択した次第です。1997年4月高見山が初登山、その後毎週（日曜日）には近畿の山々を歩き連休を利用してアルプスを歩いて来ました。アルペンには8月の夏山例会に参加するとの事で会員になりましたが縦走はそれのみで会員の方との山行は無かったと思います。10年くらいお世話になりましたが私の事情にて退会することになり山仲間のお誘いで京都山岳会に入会し歩いておりました。2008年の個人山行（焼岳）で夏山山行の板倉さん達と逢う事により再入会し現在に至ります。最近慢性腎炎になり体調と相談しながらの山歩き、縦走を楽しんでおります。元気な間にアルプス縦走やいろんな山を歩きたいと思っています。会員の方々には身体に気を付けて山を楽しむ事を希望致します。アルペン芦山も50周年を迎えます。これから先も良い歴史が残る山岳会を目指して下さい。

「出戻りだけど温かく」

田中 ひろ子

数年前に入会して、一時期退会でした。

また出戻りです。けど温かく迎えて頂きましたことは、感謝です。

思い出は尽きない日々です。六甲山で教えてもらったクライミングを基礎に様々なお山に行くことができました。

アルペンは創立50周年を迎えて「ご苦労様です」

長い歴史についていけるように頑張ります。

今後とも宜しくお願い致します。

「スタートは薬師岳」

津木 陽子

私の山登りスタートは、薬師岳でした。

明日から登山に行くよと言われ、へえ～山？何の予備知識もなく、いざ北アルプスへ、10kg近くあるリュックを担いで登り始めました。

暑さとしんどさで、何故来たんだろうと後悔し始めましたが、しかし一歩一歩登っていくうちに従って、辛さも感動に代わってきました。

北アルプスの連なる山々の美しさ、珍しい高山植物等々、又山頂に立った時の達成感、こんなに素晴らしい世界がこの世の中にあっただと大感激してしまいました。

今では以前のように、遠くの山々へは行く事がなくなりましたが、自然大好きな気持ち

は続いています。健康である限り春夏秋冬、山の美しさを感じて歩き続けたいと願っています。アルペンの仲間に加えていただき、感謝しております。
ありがとうございます。

「体力低下に負けず」

辻本 雅夫

アルペン芦山に入って長くなります。進歩はあまりなく、系統的な知識や技術も身につかないまま体力低下の日々です。これからも山を歩いて行きたい、というのが目下の希望です。

兵庫県を日本海から瀬戸内海まで山を縦断する兵庫縦断トレールは、地図が好きな僕にとって楽しい企画でした。地図読みを実地に試すことができ、仲間と一緒に知らない山を歩けるいい経験でした。

スイスのトレッキングでも目を開かされました。雄大な氷河地形、岩峰。日本とのスケールの違いに驚きました。

近くでも遠くでも、山の世界が広がります。

「アルペン芦山の出会い」

寺田 美枝

50周年おめでとうございます。

2011年9月入会 山行案内が届き、コースを見ても自信が無く・・・不安で中々行動に移せない、集合場所：芦屋川「ここなら行ける」と何度も時刻表の確認をしたことが思い出しました。（今も変わりません）



山行では毎回CLの後を必死でひたすら進む、苦しい・しんどいでも登りたいが重なるごとに膨らんでいく。夏山山行で「上高地・槍ヶ岳」絵葉書を見るような上高地・明神岳行こうと企画に飛びつきました。岩・10⁺。歩荷とトレーニングを始め本当に行けるのか不安でしたが川村会長から「日本の山で登

れないところは無い」と一言。ザック・靴・雨具は有りましたが本当に解らない事ばかりミーティングではパッキングを並べ、一から説明を受ける（行動食・非常食違い）指導者は大変だったと思います。

8月11日～14日会員8名（新人5名）

上高地にてザック点検8k 水を入れ替え出発、明神岳を眺め気持ちは上向き！！横尾泊（初めての小屋泊）

2日目天候にも恵まれ上高地からは見えない槍ヶ岳を目指す一步一步登ると目の前に頂きが。（初めての雪渓）

3日目朝から冷たい雨が下から横から手先がしびれるひたすら下りる。
（初めての雲上）

4日目徳沢園にて入浴シャンプーが使える。
（アルペン芦山乾杯）

心の窓から素晴らしい絵画を手に入れた思いでした。

準備段階から指導頂き先輩会員に感謝・感謝です・・・アルペン芦山最高です。

「余裕と楽しむ山登り」

塚田 廣行

アルペンに入会して早15年になりました。ハイキングが目的で入会し本格的な山登りになるとは思いもしませんでした、

夏の北アルプスに誘われて登頂の感動は今も覚えています、そして好奇心の多い私、春の雪山冬山とどんどんエスカレートして行き、岩山の感度 春山の雪の恐怖 冬山の寒さを体験し、そしてクライミングといろいろ教えていただいたこと先輩方に感謝をしています。15年経った今これからは、余裕と楽しむ山登りを楽しみたいと思います。

「アルペン芦山入会から変わった私」

天王寺谷 三恵子

還暦の歳に「アルペン芦山」の仲間に入れていただき私の人生は、変わりました。
山歩きの楽しさを教えていただきました。

健康な身体を維持する事に努力し自然の中を歩く心地よさを感じています。

自然の中を歩く楽しみは、人生の楽しみでもあります。

心身の健康や鍛え方がどんなに大切であるかしみじみ感じるこの頃です。

もう歳だからという言葉で封印して、これからの人生、どんな景色が待っていてくれるか一歩一景を楽しみに今日の歩みを明日へ進んで行きたいと思います。

これからもよろしくお願いいたします。

「50周年と70周年」

戸田 祐一

私は昨年70歳になった。そして奇しくも今年はアルペン芦山の50周年である。50周年の記念事業として兵庫縦断トレールを提案し、辻本、尾村、市居の各氏の賛同を得て委員会が発足、多くの会員の参加を得て現在進行中である。

完成予定は 10 月 9 日である。私の誕生日は 9 月であるから、若干 71 歳にはみ出してしまうが、人生の 70 周年の間に関西における山登りでひとつの成果を出せそうであり、ワクワクしている。岩登りも沢登りも雪山もそれなりにやってきたが、無雪期の山を、地図を正確に読んで自在に歩く事は山登りの基本であるだけでなく、幾つになっても山登りの楽しさの原点のような気がする。山登りを始めたときの状態に、年をとって再び回帰してきたのかもしれない。いずれにしても段々と激しい登山は出来なくなって来ているが、豊かな自然の中にどっぷりと浸かるような山登りをしていきたいと願っています。

アルペン芦山は最近新しい会員が増えている。今後のますますの発展を期待しています。



「歴史ハイキングについて」

東郷 滋

満 61 歳を迎えた 2008 年の秋、“明日香”を最初に時代を下りながら“幕末明治の函館・小樽”を終え、以降は時代に関係なく歴史ある街を選び、今年の秋の“平泉・角館”の第 33 回までを迎えるまでになりました。

その間、年 4 回の開催は一度の中断・延期も無く、今や私のライフワークとなりました。歴史ハイキングを始めるきっかけは会社を定年になり、ほっとしたところで腰を痛め、ハードな山行が怖くなった時、会員の合田さんから“東郷さんが出来ることを始めたら！応援するから”と励まされ、元々歴史好きだったことから歴史を紹介するハイキングを始めました。

合田さんの会員への参加呼びかけもあって大勢の会員の参加を頂き、これに気を良くして続けることが出来ました。まず行き先を決め、それに関係する下見・歴史書・インターネット及び図書館に通い詰め勉強することから始め、当日近くまで資料作りに終わっていますがいつも多くの参加者に励まされ現在まで続けて来れました。会は今年で 50 周年を迎えますが、歴史ハイキングも 50 回目を迎えることが出来るように頑張りたいと思っています。

「心に秘めた夢」

富井 直樹

平成 26 年 8 月に入会して 2 年余りですが、ほとんど山行に参加できていません。
ただ、岩に、沢にと十分楽しませて頂いております。
心に秘めた夢は大きく、未長くお付き合いの程宜しく願います。

「アルペン芦山 思い出いろいろ」

中尾 聡子

「60代が一番良い時！」と教えて下さった先輩がいました。
体力、時間等いろんな面で余裕もでき、自由がきく年代という事でしょう。
アルペン芦山入会 14 年目、ハイキングを始めたくさんの事を体験させて頂きました。
山から下りて、雪のちらつく温泉では、なかなか体が温まらず震えながら着替えした本
沢温泉 露天風呂。やっと探し当てた山奥の温泉は急流から汲み上げる水が追い付かず、
底にたまった砂の熱さに慌てて岩風呂を飛びだした。北海道の薫別温泉等々。
70代に入った今では腰痛に悩まされ、会の山行に参加もままならず・・・・・・
とは言え「篠山の方で蛭がでたよ～」と誘ってくれる友人に付いて行けば自然はそれな
りに受け入れてこちらの要求を満たしてくれるのが嬉しい。
トレーニング次第ではまだまだ使えそうな体！
体力に合った山行きの中で四季折々の自然を楽しみたいと思っております。

「50周年に入会」

中西 隆彦

新入会員の中西と申します。皆様、よろしくお願いします。
兵庫労山 3 回目の会という浮気者です！
アルペン芦山 50 周年の年に入会いたしました。
なにやら縁を感じるのは私の独りよがりでしょうか・・・・。
会がますます発展いたしますようにお祈り申し上げます。

「マラソンやトレイルラン」

長野 要

本格的ではありませんが、以前はマラソンやトレイルランをしていました。走っていると綺麗な景色を見落としたり、じっくり眺められなかったり、年齢的にもゆっくりとマイペースで歩くという事で山登りをはじめました。4年程前から嫁さんや友達を誘って六甲山界隈から山登りをはじめました。そのうち自分達でルートを選択するのも限界があったのと、アルペン芦山のセミナーを通して入会いたしました。アルペン芦山の先輩方が山行の中でやさしく接していただいたおかげで気楽に山登りを楽しみ満喫させていただきました。これからもなるだけ山に関わっていきたいと思います。

「山で世界広がる」

長野 雅美

私が初めて山登りをしたのは、2012年の5月です。新神戸から摩耶山、六甲山頂、有馬温泉まで行きました。ずっ——としんどかったけど、終わったらまた行ってみたい気持ちになりました。山のことも全然しらなかったけど、テレビや雑誌でみかけたら見るようになりました、自分でも六甲山に行くようになりました。山と関わったおかげで世界が広がったと思います。アルペン芦山に入会でき、まずは、自分の体力、技術にあわせた山に行けるように頑張りたいと思っています。60周年の時には、もっと成長できているように！！

「アルペン芦山との出会い」

樋木 保

ほんと些細なきっかけでアルペン芦山のセミナー案内をロックガーデンで手にした時から、あっという間に2年が過ぎました。

今まで経験した事が無かった沢登り、クライミング、六甲全縦（2回経験）等いろいろな事を経験させてもらい、2年前より少しは体力、技術もついたと思っています。でも目に見える一番の変化は、痩せた事ですかぁ～。最初、クライミングするのに体が重たく、上手く登れず悔しい思いをしました。これではいけないと思い、頑張った結果「入った時から比べると随分痩せたねぇ～」と言われると嬉しい反面、そんなにぶくぶくしてました？と複雑な気持ちになります。

行きたい山や沢が沢山あり「時間」と「小遣い」が追いついていませんが、自分のペースで頑張っていこうと思っています。

まだまだ、教わる事ばかりで、ご迷惑をおかけしますが、早く先輩方に追いつけるように頑張りますので今後共、宜しくお願いします。

最後に「アルペン芦山50周年」”万歳” ”万歳” ”万歳”、、、

「若いころから山歩き」



花田 邦尚

会社員（サラリーマン）時代、20才～24才の時に思う。

燕岳～槍ヶ岳迄の縦走で夏休みは良く山歩きをしたものだ。

「充実した今」

濱中 千代子

アルペン芦山に入会して10月で丸4年になります。

入会間もない頃は受け身だけで自ら行動に移すことは有りませんでした。

意味のない日々を反省し会の先輩や仲間と例会、山行を共にし

最近漸く楽しみ方や喜び達成感と充実した山行を掴め始められたように思います。

新しい元気な仲間達にも、山への楽しさで充実した今を是非感じて欲しいと思っています。

今後のアルペン芦山の発展のためにも新しい仲間のお手伝いもし安全に楽しくを motto に大いに山とお付き合いをしようと思います。

皆さんどうぞ宜しくお願いします。

「アルペン芦山50周年おめでとうございます。」

張本 弘子

私は会に入るまで主に低山ハイクでした、会に入って2年、百名山の大菩薩嶺、槍ヶ岳、奥穂高、雨飾山など登頂することが出来ました、雨の時もありましたが山頂での達成感と眺望の素晴らしさを実感！！

雪の春山は全く初めてで去年は立山、今年は北穂高に奥穂高岳と貴重な体験をさせていただき、雪の怖さを知りました。

例会の岩登りも初めての事で足はガクガク、手は汗ばみ、のどはカラカラで緊張の連続です、ようやく手や足が岩につく事ができるようになりましたが、まだまだ奥深くロープワークなど難しい事ばかりです、いつかリードができるように、頑張ります。

まだまだ、登っていない山がたくさんあります、1つずつ制覇していけるように、60年、70年、100年と会が続く事を願っています。

「84歳、これからも夢持って」

古沢 正二

アルペン芦山40周年が昨日の事のように、あっという間に10年の月日が過ぎ50周年を迎えました。

この10年の間、会長をはじめ全会員が会のそれぞれの持ち場で励み、今や充実した立派な会になりうれしい限りです。

僕も入会から29年を数え、心身共にアルペンの諸先輩の指導により今の自分があると思っています。

定年後、半年田舎暮らしをやっており皆さんとの山行が少ないのが残念ですが、こちらにも山仲間を得て東北の山を歩いておりますうち84歳を迎えました。これからどれほど歩けるかですが、これも挑戦です。

さて、田舎での山行は都会のように交通機関がなく、登山口まで車の使用、それも交差縦走と言って2班に分かれ登山口と下山口に車を置き、頂上で互いの車のキーを交換まさしく縦走を果たし、帰りは定めた温泉で合流、汗を流し帰るというものでなかなか歩きごたえがありこんなして鍛えられてきました。これからも夢をもって歩き続けたいと思っています。

最後になりますが、益々のアルペン芦山の発展を願ってやみません。おめでとう！

「この世なる間はたのしくもあらな」

古沢 寿美

私が山を歩きだしたのは勤め先の課長の誘いで京都ハイクファミリーに参加してからです。

京都中心の山をよく歩きましたし、仲間もでき楽しかったことがよみがえってきます。そうこうしているうち、月1回のハイクでは物足りなくなっていたところに、Gちゃんがアルペン芦山のチラシを貰ってきて参加させてもらったのがアルペンとのかかわりで、「木曽駒ヶ岳」の登山バスの訓練で宝塚から六甲越えしたのが最初でした。

山岳会というのはこんなにしっかりと、歩き方から、荷物の詰め方などなど、そして何よりも山の楽しみを教わったような気がします。入会から29年経ちました。その間いろんな山に連れて行ってもらい感謝に堪えません。ここ20年は半年田舎暮らしで

ご一緒出来てませんが、田舎でもこちらの仲間とよく歩きましたが、如何せん病を持ってからは歩けなくなりました。

そんな折(今年1月)、かつての京都の仲間から10k位の京都トレールの「ぶらり散策」を誘ってもらい、また歩き始めています。まだ歩けるんだ！4, 5回参加して気をよくしています。

「生ける者遂には死ぬるものにあれば この世なる間は楽しくもあらな」(大伴旅人の歌)の心境です。

アルペン芦山50周年おめでとう！

「六甲山からアルプスへ」

藤原 千子

一人で山歩きをはじめて5年・・・

アルプスへ行く気なんてさらさら無く・・・

六甲山で十分満喫していたのに・・・

一人歩きが危ないと言われアルペン芦山に入会したのをきっかけに日帰り登山からアルプスへ、そして沢や岩やと一人では絶対できない色々な経験をさせていただきました。

向き不向きはありますが、とりあえず体験させていただけた事に感謝です。いつか自分も新しい会員に同じようにしてあげることができるのかどうかはわかりませんが、少しでも恩返しができればいいな！と思っています。

「有難う アルペン芦山」

福富 孝吉

アルペン芦山に入会して25年になります。入会以来、ハイキングは毎年「初日の出ハイキング」から「納山ハイキング」までほとんど参加、ハイキングの参加回数は多分、誰よりも多いと思っています。それだけ長くアルペン芦山にお世話になっていて有難いです。

私が会で行った特色ある山行は平成17年より25年まで「マイクロバス日帰りハイキング」で、年4回企画していました。赤坂山、千ヶ峰、鎧岳・甲岳、三尾山、霊仙岳、藤原岳、那岐山、西方ヶ岳、若狭駒ヶ岳、野坂岳、岩籠山、生石高原・・・等々、近郊でもちょっと遠く、バス利用でなければ行きづらい、そして特徴のある山々です。これらの山行を毎回リーダーして好評でした。(マイクロバス日帰りハイキングの復活を期待します)

私が事務局長時代、当時、会員の高齢化が進み、やや元気がなく赤字会計であったものを3年間で黒字に転換出来たのは嬉しい思い出です。近年は運営委員皆さんのより活発、積極的運営で若い方も入会して次第に勢力を強めていて嬉しい限りです。

私は82歳。健康に長生きしているのは、会で良き仲間を得て、良き指導者を得て、また良きフィールド（美しい山）を得て、実現出来たものと思えます。

そして10年前頃から「トミおじさんのホームページ」を開設して会の情報発信をつづけています。お役にたつ楽しい仕事になっています。というわけで、アルペン芦山は私の人生の生きる糧です。

もう一つ私は冬季、「島本スキークラブ」というところに所属していてスキーも楽しんでいます。「スキーは生涯スポーツ」といわれますから。

山とスキーは楽しいです。いつまでも皆さんに感謝しながら生きて行きます。



「アルペン芦山との出会い」

前田 澄代

50周年おめでとうございます！！

私の「アルペン芦山」デビューは7年前のH21年8月23日の自宅（三田市）近くの鎌倉峡（神戸市道場）の例会への参加でした。

不安いっぱい初参加でしたが既に入会されてた知人のT谷さんはじめ会員の皆様の親切なサポートのお陰で楽しい記念すべきアルペンデビューが出来ました。

その後入会もさせていただき・・・・・・あれから7年！！

途中体調不良で参加出来ない時期もあったりでしたが復活??

いつまでもボチボチですがこれからも「アルペン芦山」で楽しく歩かせていただきたくよろしくお願いします。

ありがとうございます。

「アルペン芦山創立 50 年 私は在籍 20 年」

松下 弘毅

私は1995年の秋に入会させて頂いて、楽しい多くの山登りを体験させていただきました。

初めての参加は、その年の9月14日～17日「火打山～妙高山」のバスハイクでした。今でも思い出します「天狗の庭」の美しさは素晴らしかったです。

14日の8:30、阪神芦屋駅からバスに乗り込んで、翌朝笹が峰6:00登山開始火打山。翌日は、大雨の妙高山のコースでした。

ビックリした事。バスに乗り込むと、古参の先輩様数人が、深酒飲んでバスの座席の通路にマットを敷いて、その上で鼾をかきながらの就寝です。

流石、山の達人は違うなあ～と感心しました。こちらは、寝られません～

そんな私にも、1999年10月に谷川岳～の倉沢岳のバスハイクのCLをさせて戴きましたのは光栄に思っています。

20年の間に多くの先輩の指導の上で、沢山の山を登りました。数え切れません。100名山も20山ほど登れませんでした、楽しい思い出で一杯です。

これからは、皆様の背中(リックサック)を見失わない様に、遅れをとらない様に、ハイキングに頑張りますので、宜しくお願いします。

80 過ぎても、まだ、がんばるぞーー 此れからの気持ちです。

「アルペンと私」

松尾 啓子

アルペンへ入会したきっかけは、一般参加で地獄谷～ピラーロックへの登山でした。まだ六甲山を登り始めたばかりの私には感動のコースでした。

それからは何度も通い、今も自分のトレーニング道として歩いています。いろいろな仲間たちとこの道を行き、ピラーロックの上から美しい山と海と街を眺めるたびにこのすばらしい自然がいつまでも続くようにと願っています。

これからも登山が出来る幸せをかみしめて、いつまでも歩いて行きたいと思っています。

「ストレッチ体操」

松山 芳夫

山岳会の中では早くから始めていた「アルペン」。これが気に入って夫婦で入会（1999. 6名簿）。

途中、音楽修行のため退会。その五年後に再入会。山行前後のストレッチは有意義。でも、もう85歳、男子平均寿命79. 5をこえて、山行はきつなくなってきました。

現在では、老化による筋肉痛防止のため朝夕には必須となりました。

「沢登りとの出会い」

真野 晃

わたしがアルペン芦山に入会して約 20 年近くなります。入会当初はハイキングに参加していましたが、沢登りを始めてから沢のみ参加するようになりました。沢にはまったのは暑い夏に清らかな沢に入り、泳ぐことで暑さを忘れ、岩場を登ることで非日常的な経験を味わうことが出来るからです。今後も、楽しい沢登りが出来ることを願っています。

「50周年、おめでとうございます」

溝邊 愛子

在籍20年、思い巡らすと、いつまでも語り草になる様な事象もあり、ハイキング・沢・岩と、それぞれ皆さんにお世話になりながらの楽しい思い出がいっぱいです。

あと、50周年の壮大な計画「兵庫縦断トレール」に自分の力量の範囲で少しでも参加できたこと嬉しく思います。

これからも、若い方々の力でアルペン芦山の益々の発展をお祈りします。

「芦山と私」

宮津 敦子

50周年おめでとうございます。

私と山との関わりは富士山でした。職場に毎年夏に富士山に登っている変った人がいたのです。その人と親しくなり、富士登山にさそわれ、職場の人と家族で参加することになり、そのトレーニングに六甲登山を始めました。その夏、富士山に登り、翌年西穂高独標まで歩いて、山は終わったのです。

約10年後、子どもが家を出て、自由な時間が出来、足腰を鍛える必要を感じ、芦山の例会に参加させてもらったのが運のつき。山行後の「反省会」と称する飲み会にはまってしまったのです。

岩登り教室、春山トレーニング等々、ザックを測られ、15kg 近くを小さな体で（ザックが歩いている様）かつがされました。

春山の赤岳下のテント場で真白い雪の上にテントを張り、真夜中に目覚めて外に出た時の満天の星空、忘れられません。奥穂からジャンダルム西穂へ、西穂から奥穂、槍への縦走登山、剣岳登頂、50才台は本当に充実した山行が出来ました。芦山で登山技術を身に付けさせていただいたからこそです。

今はもう行きたい山ではなく、「行ける山」をさがして花や景色を愛でながらゆっくりと歩いています。年と共に痛めた膝をなだめながら、最期まで歩きたいと思っています。

「山と出会い5年目の夏を迎えた」

村井 久代

仕事を辞めてブラブラして居た時期で「何か身体を動かさないとヤバいなあ〜」と、思いスポーツクラブに行ったものの続きません。

ふと「山が良いかも?」と思い図書館に出掛け手にしたのが、有名な深田久弥の「日本百名山」読んでみると美しい文章と、その山の背景に有る様々な知識の深さに魅了された。

山は細々では有るが続いている、仲間と一緒に登る楽しさ、変化に富む山の魅力、リスキーで有るが故の面白さ等であろう。今はこのアルペン芦山の仲間と共に楽しんで行きたいと切に思う。

「山と関わって」

村住 秋江

1887年3月、38歳の時、奈良県勤労者山岳連盟に所属する山岳会のメンバーとなり、それ以降ずっと山に関わってきた。アルペンには芦屋に越して2007年入会する振り返ってみると人生の大半は山と共に歩んできたと言っても過言ではない。

1887年の初めての夏山は「蝶ヶ岳から常念岳」縦走だった。

「山って岩だらけなんだ」という素朴な印象を持ち、この夏山登山ですっかり山に魅了されてしまった。

「利尻岳から宮之浦岳」まで、今まで登った山は数知れず。まだ明けぬ3時半起きで山小屋出発、10時間から12時間縦走したこともしばしば。トレーニングと称して岩も沢も試みたが縦走が一番好き。仕事を持ちながら精力的に山に行く女性達に感化されて40歳初め再就職、休暇を取って同じように山へ向かった。家庭と仕事が両立できたのも山があったからだと思う。

2009年秋、常念岳に再び立った時、20余年の時間の流れと共に山頂から見えるほとんどの山を踏破できていたことに感動し、年月の重みを感じた。

次第に山小屋泊まりに飽きてテント持参で縦走し、本来の山の楽しさもずいぶん味わった。好きな山域は裏銀座、何度も出かけた。季節と仲間が違えばまた楽しい。

50代初めより、海外の山にも登ってみたい、歩いてみたいと思うようになり、今なお海外に足を運ぶ。自分でプランを立て手配をして山仲間と出かける。回数は数知れず。異文化を強く感じられる南米やネパールが好き。2013年エベレスト街道を歩き、世界最高峰をまじかに見ることのできるカラパタール展望台5545mに到達した感激は今なお胸を熱くする。

山に赴き大自然に触れ、人生観も変わり、生きるパワーの源となった我が登山人生。年老いたら、今までずっとしたためてきた山行日記を読んで昔歩いた山を振り返り、当時に思いを馳せて懐かしむのもいいかなと、、、

「これからも頑張ります」

森山 銀侍郎

これからも、がんばります。
やってみたいこと沢盛り。

「親子で山登り」

森山 佳子

きっかけはセミナーです。槍ヶ岳、穂高にチャレンジしてみたかった。
クライミングを初めてやったときに絶対無理だと思いました。
今も下手くそです。が、様々な経験からクリアをできたときに皆様のお蔭だなと感謝しています。
銀侍郎と二年連続で六甲全山縦走をリタイアせずに完走できたのはすごくうれしい。
これも皆さんの協力あってで、自力では難しかったと思います。
縦走など会の山行に参加してみたい。

「50周年、私も50年」

山田 昌吾

私と山のかかわりですが、思ってもみないところから始まりました。
40歳を超えたあたりから、身体面の不調、特に足腰に神経的な痛みを覚えるようになりとうとう部下の結婚式当日朝に立ちあがれなくなってしまったのが、山を歩こうと思ったきっかけです。
それから毎週末に朝日ヶ丘の自宅から東山を経由して開森橋を通過し高座の滝に何とかたどり着き風吹岩までの往復を一日かけて登山することから始めました。幸運なことに山との相性がよかったのか1年経ち3年経ち5年も過ぎると午前中だけで帰ってこれるようになりました。
会社の中では成果をあげることを求められる一番精神的につらい時期でもありましたが、登山から帰ってくると自然に会社のことが気にならなくなる効果にも気づきました。
このように心身ともに健康でいられるのも登山とのかかわりができたことによります。心身ともに元気になるとさらに山のことをいろいろと体験したいという気持ちが生じてきました。
山岳会というものの存在を全く知らなかった私ですが、風吹岩まで登っている最中に「アルペン芦山の登山セミナー」の案内を見つけました。これが私とアルペン芦山とのかかわりの始まりですが、当会50周年と期を一にして私もちょうど50歳になりました。
これから会の行事に参加するなかで登山に必要な技術を学びそしていろいろな経験をする事を予想し期待もし、さらにアルペン芦山の歴史を刻んでいきたいとも思います。

「岩登りがしたい」

山本 千佳子

岩登りをしたいと入会し6月でまる4年になります。初めは保壘の岩にセミのようにへばり付いていたのが今では一番簡単なルートとは言え、リードをするまでになりました（この歳で）。ひとえに先輩方のご指導の賜物、とりわけ板倉先輩との出会いには特別な思いがあります。

入会時の総会で壇上にずらずと並んだ同期の皆さんの半分以上が退会され寂しい限りです。

こんな風に行く人来る人が50年を支えてこられたのですね。これからのアルペン芦山の50年も変わらずに山が見守ってくれることでしょう。

「芦山との出会い」

柳生 政男

会は50年、私が入会して30年。月日は早いもので、私も来年は90才。でもアルペンに出会って本当によかった。でなければ私は山では六甲山しか知らず人生を終わる事でした。

32年ほど前に新聞で見た真冬の裏六甲の氷瀑ハイクに参加した。それがアルペン芦山との初めての出会いです。それから何回かアルペンのハイクに参加したある日、リーダーの川島さんから、白馬岳のバスハイクに誘われた。それが私の3千メートル級の山との出会いです。生憎の雨でしたが、雪渓の麓の谷で熊の親子が戯れ遊ぶのを見て、上では雛を連れた雷鳥の群を随分と見た。さすが北アルプスと感じました。

翌年のバスハイクの立山縦走の帰りの車中でアルペンに入会しました。

それから毎年の春山に参加。そして冬山は無理なので氷ノ山と比良山はよく雪山に登りました。春山は山の尾根に立ち白一色の雪山の眺めは本当に素晴らしいものでした。あの頃のリーダーは30才台で若かった（今も）。いつだったか、ハケ岳の春山で頂上手前の尾根に出ると雪の中で台風並みの強風でピッケルと足の三点確保で何とか立っていたが、川村リーダーは行けと叱咤。なんとか赤岳頂上小屋に着いたが、列になって登っていた他のグループは小屋まで誰も上がって来なかった。

思い出せば色々あった、気の合った三人（小畑・故松尾）で山小屋二・三泊の縦走をよくやった。長いのは立山の室堂、笠ヶ岳からスゴ乗越小屋に暗くなって小屋に着いて怒鳴られたのも思い出す。

鬼さんと始めた冬山温泉も楽しいものでした。冬山に山のピークは狙わず雪の深い処で雪を楽しみ、温泉の露天温泉で水筒の酒を温泉で温め飲んだのも楽しい思い出です。二度行った雪の中にぽっかり湯船だけの本沢温泉が最高でした。本当に有難うございました。

「私とアルペン芦山の出会い」

古田 悦子

私のアルペン芦山との出会いは10年前くらいに保久良神社に行き天気が良かったのでつい一人で風吹岩まで行った帰りの途中でした。

前からとても大きなリュックを持った女性2人が休憩されていました、つい声を掛けて色々お聞きしたのが板倉さんでした。

この時アルペンに誘って頂いたのですが、日曜日の参加は無理だったので平日山行のあすなろに入れていただきました。

私が入部したときは15人位のメンバーだったのですが引っ越し・ご主人の介護等でメンバーが減り、昨年芳山から離れて友の会になり少数で近場の山行なのでこれを機会に又板倉さんをお願いして、アルペン芦山に入会させて頂きました。

トミおじさんのHPを見ていつも楽しそうだなと思っていました。

以前とは違い色々な山に連れて頂いて、今はとても楽しく参加させて頂いています。

これからもよろしくお願いします。

「小さな新聞記事」

和田 臣子

アルペン芦山に出会ったのは、小さな新聞記事だった。

行き先「地獄谷」とあった。

何も分からず参加してみると岩場の登り、ロックガーデンのめずらしい道、森の中と初めての体験ばかり。

下山した時は山歩きの楽しさを、身体いっぱい満喫しました。

その後はもう出来るかぎり例会に参加し楽しい山歩きをしています。

アルペン芦山の人達と小さな新聞記事に感謝!!

《ひと言集》

松田 美和子

ハイキングで一般参加した時、会の雰囲気の良いのが印象に残りました。その後セミナーに参加、入会しました。

新田 光男

芦屋市茶屋町にあった喫茶店「エリート」で川村氏達と知り合ったのが入会のきっかけ。ベジタリアンなのでハイキングはなかなか厳しかったです。

矢口 恵美子

きっかけは新聞掲載の六甲山。リーダーの伊藤朝子さんをはじめ皆さまが声を掛けてくださり、昼も一緒にと言われて嬉しかったのを覚えています。

岩田 幸一

1992年の岩登り教室に西田さんと一緒に参加。同期は萩原さん、脇さんを覚えています。終了後入会。思い出の夏山は鬼塚・川島、古沢夫妻と北岳にご一緒しました。

近藤 建策

新聞で知った2003年秋の高森氏リーダーの六甲山が初参加。その後岩湧山ハイクで昼休みに持参のウィスキーを飲もうとしたら、会員から「この会は山行中の飲酒禁止」と注意されたのが印象的で翌年2月入会。遠出は火打・妙高が印象的。

山内一晃

30歳台に新聞案内で気軽に参加以来30数年、バス登山の甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山が印象的。

甲斐駒ヶ岳は初の山小屋泊で、寒くて狭くて寝られなかった。鳳凰三山は初のリーダーで台風と歩調を合わせたの登山、山頂は嵐となったが、宿ではハメを外した大盛り上がりであった。福富さんにおだてられて会報の表紙絵を2年間担当、それが縁で水彩画の個展を開くことができた。来年広島大学を定年退職するので、またまたアルペンに復帰できるかも……。皆様、これからどうぞよろしく！

松島 彰

六甲全山縦走をやり遂げると、どここの山にも行けるとけしかけられて、又岩登りにも挑戦し、結果北海道から九州まで幾多の山を登ってまいりました。

出来たのです。登れたのです。この私が。

それからアルペン芦山の山行に参加した時、リーダーやサブリーダーの方の真摯な働きを見て感激しました。

そしてそれを参考、見習って、そして友を集い、山行きを計画し、実行したのです。お陰でここ20数年間の山行や、他の冒険旅行もしながらも、私の友人含めて全員一切怪我や事故がありません。

これが私の自慢であるのです。何より事故無しです。

山登りの魅力と心構えを教えて下さった増本さん、板倉さん、そして毎回安全祈願で参っております神呪寺のお大師さんのお陰様です。本当にありがとうございます。

アルペン芦山 50 周年を迎えて

田中 嘉男

入会のきっかけは、山の辺の道のハイキングでした。柿や、金魚、木の上のニワトリなどが沢山の秋のハイキングでした。山行の思い出は、松尾さんといった、北鎌尾根です。もう、松尾さんもういなくなっちゃいました。沢も楽しみました。今は病気で、大変です。病気を治して元気になるぞ。

アルペン芦山での思い出

緒方 義博

アルペン芦山に入会しての思い出としては、息子のことで、色々と、お世話になりました。入会してから、今まで、楽しく遊ばせてもらっています。これからも、遊ばせてください。これからもよろしく、お願いします。

いい会ですね。

劉 琪（りゅうき）

入会のきっかけは、仕事仲間の瀬さんから、とてもいい会だから、一緒に山登りをしましょうと、誘われ、紹介されました。初めての岩登りや沢登りは、刺激的でした。これからしたいことは、遠くの山へ、泊りがけの山行がしたいと思います。

小畑 雅子

今まで出かけた山は日帰りも泊りも全部楽しかったです。

荒川 康典

9/4に登山セミナーを修了し、同日、晴れて入会させて頂きました。
歩いてみたい尾根、体験してみたい山行やイベント沢山あります。どうぞよろしくお願い致します。(参考までに“晴れ男”です)

アルペン芦山創立50周年にあたり

竹内隆彦 (2016年9月入会)

アルペン芦山創立50周年の記念すべき年に入会させて頂き戴き光栄に思います。
私の目標と言うか指針は、希望を込めて、さだまささんの「空になる」の歌詞を引用させていただきます。

「自分の重さを感じながら 坂道を登るいくつもの峠を越えてもっともっと上を目指す
いつか辿り着ける世界へ・・・」

米田 哲

アルペン芦山発足50年の意義ある記念誌に寄稿させていただくことになり光栄に思います。元来、高いところと岩場が苦手な私ですが、足と負けん気だけが強いのが取り柄です。なんとか高いところと岩場をこなせるようにと入会させて頂きました。

今年の春山山行では涸沢～北穂、涸沢～奥穂に行き奥穂では雪壁の上り、下りという貴重な経験もさせていただきました。入会は浅い私ですが経験を生かし微力ながら会のお手伝いができればと思います。

アルペン芦山 事故及びヒヤリハット一覧表

年月日	山域名	事故内容・傷病程度	原因・処置・その他
1969/6	六甲山	5m墜落。左足くるぶし骨折	妙号岩でトップ登攀中、ハーケンが抜ける。
1971/6	六甲山	1m転落。右足くるぶし骨折	芦屋高座谷第1～2堰堤間の岩場をトラバース中、降雨中で傘をさしていた。
1971/8	剣 岳	約30m滑落。アゴ、左肘裂傷	長次郎雪渓左マタ上部トラバース中、スリップしガレ場に突っ込み停止。
1972/7	六甲山	約5m墜落。腰椎第二骨圧迫骨折	ロックガーデンB懸岩をトップで登攀中、腕力を消耗し飛び降りた。
1974/7/21	武庫川	水死（急性心不全）	武庫川上流で渡渉夏山トレーニング訓練中。
1974/11/10	六甲山	墜落。右手首尺骨、橈骨骨折	ロックガーデンの岩小屋で宙吊りの脱出法訓練中、シュリングのテグス結び目がほどけた。
1977/5/22	氷ノ山	八木沢F2登攀中、3m転落右膝骨折。	わらじの結び方が悪い（2ヶ月入院）インド ナンダデビィ隊訓練中（不参加）
1979/5/3	明神岳Ⅲ峰	左大腿骨骨折、骨盤骨折	岳沢側をトラバース中、スリップし約300m雪面を滑落、水吞沢で止まる。松本市内病院へ入院。さらに、玉津リハビリセンターへ転院。
1988/5	北穂高岳	滑落、1名足首捻挫	下りで1名滑落、つられて3名滑落。
1992/1	武奈ヶ岳	転倒、ピッケルで腹部裂傷	春山トレーニング中
1994/1	槍ヶ岳	靱帯損傷	スノーボードで搬出
1994/4	蔵王スキー場	右足膝下骨折	
1994/8	滝谷にて	右足打撲	岩登り中、ヘリにて救出。
1997/5	鳥海山		1名が視界の悪い中隊列から遅れ、なかなか合流出来ず時間が経過する中、山形県警に通報。秋田山岳会の方にお世話になる等大きい遭難騒ぎとなった。怪我等なく合流出来た。
2004/5/3	北穂高岳	滑落、足負傷	7名全員が滑落、1名足負傷しヘリで搬送。
2004/10/31	高御位山	左足首骨折	（一般参加者）
2005/5	奥穂高岳	落石、頭部裂傷（5針縫う）	他グループの落石による、奥穂からヘリで搬送。
2005/8/1	鏡平小屋	転倒、後頭部内部出血	二段式ベッド梯子を踏み外し転倒、後頭部強打、帰宅後すぐはMRI異常なし、約1ヶ月後後頭部に血の溜まり発見。緊急手術、約2週間入院。
2006/9	羊蹄山	急性胃腸炎（食あたり）	急に嘔吐・下痢の繰返し、避難小屋泊、自力下山。
2008/9/21	六甲山	下山中転倒、手首骨折	六甲ケーブル横から展望山へ下山中転倒、会員にサポートされ下山。治療10ヶ月。
2008/11/2	保津峡船曳路	滑落（一般参加者）	幅の狭い急勾配の水平路で滑り転落。会員数人でザイルを張って救助、事なきを得た。
2009/7	鳥海山	隊列が3つに別れた	ガス発生。視界悪く隊列乱れるが何事もなく合流。
2010/2/4	船坂谷	道迷い	雪の中、単独下見。3時に救助要請あり。会員5名+県連1名で向かう。救出終了24時。

アルペン芦山 事故及びヒヤリハット一覧表

年月日	山域名	事故内容・傷病程度	原因・処置・その他
2010/8	北方稜線	濃霧道迷い、2日間ビバーク	全員（8名）ヘリコプターで救出。
	裏剣	2名で相手を見失う	1人はビバーク。1人は小屋。
2013/3/17	荒地山	登攀中、滑落。足首2ヶ所の骨折。	キャッスル岩稜中央部をサードで登攀中、足を滑らせ1.5m位バンドに左足踵を打った。
2013/8/4	鈴鹿山系（渋川）	滑落、足首アキレス腱近くの内果骨折。	愛知川を渋川に変更（愛知川入口閉鎖）キャニオング中3mの滝からダイビングし骨折。
2013/12/1	荒地山・地獄谷	滑落、転倒。頭部の外傷（14針縫う）左手人差し指の骨折。	高さ約1.5mの小滝の上部を跨いで渡る際、着足を滑らせ落下した。手をつき指骨折。
2014/7/13	稲村ヶ岳	滑落、左肩脱臼	沢、下降ルートを探しているとき足元が滑り1m程落下、三角巾で腕固定車道まで自力下山。その後救急車で病院へ搬送。
2014/9/30	六甲山	左足腓骨端部捻挫、ヒビ及びマダニによる炎症	瑞宝寺谷西尾根下りで右前足が滑り、残った左後足の足首を捻った。自力で帰宅し翌日診察。
2015/11/10	堡壘岩	滑落、首損傷	西陵ヘトラバース中転落、木に当たって止まる。入院約7ヶ月。
2015/11/22	鳥越峠～海上	落石、右脚脛裂傷、10針程縫合	鳥越峠から下山中、5m程の泥壁を下る途中落石が当たり裂傷、応急処置をして皆で助け合い海上まで1時間強を自力歩行下山。救急車で鳥取赤十字病院へ搬送10針程縫合。その日のうちに帰宅。

事故・事故・事故

事故は、なぜ起こるのでしょうか？けがをしたら痛いのに、命をなくしたら、もう、山を楽しめないのに・・・誰も事故を起こしたい人は、いないと思います、なぜ事故は起こるのでしょうか、気の緩みでしょうか、

疲れてきたら、足や手が、前へ出なくなり、こけたりする、そしてけがをする、

起こる、なんでもないところで、転倒する、気をつけて・気をつけて、

やっていても事故が起きる。では、どうしたら事故は、無くなるのでしょうか、

自分の責任で、気を付けて、山を楽しみましょう。

記：鬼塚 孝二

『アルペン芦山の歌』

作詞・作曲 塩谷早恵子

ろーこーう ふ か く め ぐ り ゆ け はー

し ろ き も く れ ん た にー の は なー

さ め か ぜ す ず し く め れー さ そ うー

ギターコード

ろーこーう ふ か く め ぐ り ゆ け はー

し ろ き も く れ ん た にー の は なー

さ め か ぜ す ず し く め れー さ そ うー

『アルペン芦山の歌』

1. 六甲深く 巡り行けば 白き木蓮 谷の花 沢風涼しく 我誘う
2. 星輝いて 市ヶ原は 夜のしじまに沈み行く 歌声ともせよ 寒き胸に
3. 芦屋を下に はるか見て 岩肌恋し 風吹き の ザイルをさばく 山男



今回記念誌を編集するに当たり、

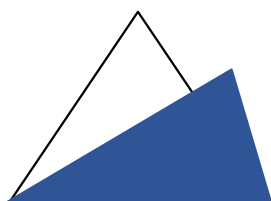
- ① 40周年記念誌発行以後の10年間の年表の充実と50年間の抜けている取り組みの補足。
- ② 出来れば創立時からの活動を知りたい。
- ③ 現会員全員からの原稿を集めたい。
- ④ 50周年祝賀会当日の記念写真を載せたいと決定して取り組みました。

- ① は50年間（10年分は不明）の議案書・会報から書き出し年表に記載。
- ② 創立当時の様子を当時の会長に総会時講演して頂けた事（抜粋を記載）
創立会員から分離・発展するまでの9年間の年表を別途作成頂き、年表を充実。
- ③ 今年10月現在の会員全員からインタビューも交えて原稿をいただいた事。
- ④ 記念写真と共に兵庫縦断・スイス写真なども記載できたことです。

調べれば調べる程記載漏れも判明。今後の60年、70年の後輩にお任せします。
担当会員の協力はもとより、資料協力者・アルペン全会員の協力で、作成までこぎつけたことに感謝します。

アルペン芦山創立50周年記念事業実行委員会

実行委員長	辻本雅夫					
祝賀会 WG	責任者	○東郷滋	大石達郎	前田澄代	和田臣子	安藤亮一
		上田史子				
兵庫縦断 WG	責任者	○戸田祐一	辻本雅夫	市居よね子	尾村隆	
記念品 WG	責任者	○村住秋江	板倉喜美子	山本千佳子	濱中千代子	
海外登山 WG	責任者	○辻本雅夫	張本弘子	（案作成）	村住秋江	
記念誌 WG			表紙 3 面に別記			



アルペン芦山
創立 50 周年 記念誌

発行責任者	合田 則子			
編集責任者	川島 隆雄			
編集委員	鬼塚 孝二	溝辺 愛子		
	中尾 聡子	天王寺谷 三恵子		
	伊藤 松子	山田 省吾		
編集協力者	辻本 雅夫	尾村 隆		
	福富 孝吉	宮津 敦子		
資料提供者	田渕 常雄	三浦 命	加納 公子	松山 ミヤ子
発行日	2016 年 12 月 18 日			
アルペン芦山				
住所	〒659-0072			
	芦屋市川西町 2-37	アシヤサウザンドビル	205 号室	